

みんなで描く まちの未来と 暮らし方

熊谷スマートシティ　シーンスケッチコンテスト 2024

Kumagaya Smart City Scene sketch Contest 2024

表紙のイラストは生成AIを活用して、以下の条件で作成したものです。

〇使用ソフト：ChatGPT

〇プロンプト（AIへの命令文）の内容：.

日本人の女の子がロボットと一緒に未来の社会を想像して絵を描いているところをイラストで描いてください
窓の外は近未来にし、ドローンが飛んでいる描写や公園など緑を取り入れてください

目次

1. あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 1
2. 熊谷市が目指すスマートシティ ・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2
3. シーンスケッチコンテストの意義 ・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3
4. シーンスケッチコンテスト概要・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4
5. 受賞作品
   - ① リアル部門
     - I. 最優秀賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 9
     - II. 優秀賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 10
     - III. 奨励賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 12
   - ② ＳＦ部門（小学生以下）
     - I. 最優秀賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 19
     - II. 優秀賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 20
     - III. 奨励賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 22
   - ③ ＳＦ部門（中学生）
     - I. 優秀賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 27
     - II. 奨励賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 29
   - ④ ＳＦ部門（一般）
     - I. 最優秀賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 33
     - II. 優秀賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 34
     - III. 奨励賞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 36
6. 審査･講評
   - ① 第３次審査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 43
   - ② 最終審査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 47
7. 今後のシーンスケッチコンテストの取組予定 ・・・・ P. 48
8. 全応募作品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 51

あいさつ

熊谷市は、埼玉県北の拠点としての魅力再発見と、まちの賑わいを創出して持続性のある地域づくりを行うため、デジタル技術やデータを活用する「スマートシティ」に取り組んでおります。『やさしい未来発見都市　熊谷』を未来像に掲げ、デジタルの力はもとより、「デジタルと人の力」の両方が大切であるという想いから、『デジタルの力と人の力で、社会を前に進める』ことをスマートシティ宣言として宣言し、スマートシティの推進を一層加速させてまいりました。

デジタルの力と人の力を活用した熊谷市の未来を市民や関係者の皆さんと共に考えるきっかけとするほか、サービスの応用や改善アイディアをいただいたり、新しい時代の産業創造に公民連携で取り組むため、「シーンスケッチコンテスト」を開催しました。小学生から大人までの様々な世代に、またリアル部門だけでなくSF部門も設けて、既存の概念を超えた「未来の熊谷市のワンシーン」を描いていただき、それを政策検討や、産業インキュベーションのタネとすべく取り組んでいるところです。

２回目となる今回は、昨年度と比較しロボットやドローンを描いた作品が多く、ロボットやドローンが皆さんの生活に身近なものであることを感じております。また、画像生成AIによる作品も約１割となり、画像生成AI活用がアイディアのヒントを得る手段となっていることを実感するとともに、皆様の生活の中にロボットやドローン、AIなどの新しいデジタル技術が当たり前としてあることの表れと受け止めております。

現在の児童、生徒、学生の皆さんが成長していく先には、生活・仕事の中にさらに進んだデジタル技術が溶け込み、支える未来があると考えています。 その未来を幸せでやさしいものにするために、熊谷スマートシティは未来への窓を開いています。 ぜひ、その窓を児童・生徒・学生の皆さんに覗いてみて欲しい。それはきっと皆さんが学び、社会の中での進路を選んでいく上で力になります。そして、想像したことをスケッチで大人に伝えてもらい、同じ方向を目指すことで、皆さんの未来をより幸せなものにしたいと考えています。

「シーンスケッチをきっかけに未来の窓を開き、新たな学びを」そんな気持ちで「シーンスケッチコンテスト」を開催していきます。



熊谷市長
熊谷スマートシティ推進協議会会長

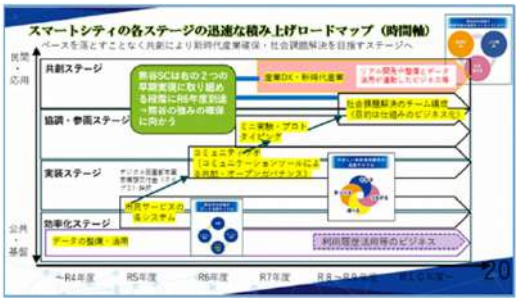
小林　哲也

熊谷市が目指すスマートシティ

熊谷市がデジタル手法を活用し目指す最終目標として、「人の力（市民参画等）とデジタルの力（データ活用等）により地域の持続性を確保」することを掲げ、これまで取り組んできました。

令和５年には、デジタルサービスの基礎部分ととらえている、市民やコミュニティ向けのサービスシステム「クマぶら」「クマPAY」「クマポ」「コミュニティバスのスマホ回数券」などの運用を開始ししました。令和６年度には、本市が長年培ってきた暑さ対策のノウハウを活かし、夏の暑さの中でも市民や来訪者が快適にまちなかを回遊できるよう、ヒートエリア、クールシェアスポットを地図上に重ねて表示する「暑さ対策スマートパッケージ」により暑い場所の回避や涼しい場所へ誘導するほか、さらにクールシェアスポットで休憩時にコミュニティポイントを付与することで地域経済の活性化も図る取組を行いました。

さらに、これからのサービスの在り方、政策施策の立案には、市民参画、公民連携が不可欠であるという考えから、行政が施策を検討する際に、市民自らまちづくりを考えてもらえる仕組みづくりをデジタル技術なども活用して始めています。この、人のつながり（コミュニティ）を活かした誰もが自由な雰囲気で語り合うことができ、夢を実現できる場として、熊谷版リビングラボ「コミュニティラボ」を設置しました。





市民や企業のまちづくりへの参画を促進し「シビックプライド」の醸成を図るとともに、デジタル手法を活用したコミュニティの活性化、新技術やコモンデータの利活用を通じた市民ニーズにマッチしたサービスの提供を行うほか、スマートシティの取組各分野において、市の直接的な事業推進のみならず、市民や企業等の自由な発想・発信を後押しし、熊谷スマートシティへ”クール”に参画できる環境（スマートクールシティ）を整備するなど、公民連携によるスマートシティの定着を進めていきます。

※ クールには「涼しい」の他にも、「かっこいい」「素敵な」といった意味を含む。

※ コモンデータ：熊谷スマートシティ推進協議会において、行政が提供するオープンデータ以外にも、民間から公共的な活用に向けて提供されるデータを含めて表現する場合に用いる用語。

シーンスケッチコンテストの意義

令和５年度に開始したシーンスケッチコンテストは、言葉のみで表現することは難しくても絵を描いてそこにストーリーを加え、未来の熊谷市の姿を表現する「シーンスケッチ手法」により、小さなお子さんから大人の方まで皆さんの夢や理想の「未来の熊谷市」を描いていただくものです。絵に描かれたアイディアを産業創造を加速する新たなアイディアとして取り入れるなど、今後の市の政策検討の参考とするとともに、公民連携による新しい時代の産業創造へとつなげるための手法として開催しています。

令和５年度の作品からは「暑さ対策、まちを冷やす」などのアイディアを多数いただき、実際に令和６年度のスマートクールシティワークショップのテーマとして取り入れ、商品・サービスの提案や新たなまちづくりのアイディアとして活かしてきました。

※ スマートクールシティワークショップ：「スマートクールシティ」は市民や企業が熊谷のまちづくりに「クールに」参画してもらうコンセプトで始めたワークショップ。



R5年度　ＳＦ部門最優秀賞「これで暑さも大丈夫!!!」



Ｒ６年度スマートクールシティワークショップの様子

また、シーンスケッチコンテストは市民等がスマートシティやDXに触れる機会でもあり、人材育成の場でもあると考えています。

現在の児童、生徒、学生の皆さんが成長した先の世界は、更にデジタル技術が生活や仕事の中に溶け込み、人々を支えている世界であるでしょう。その未来を幸せでやさしいものにするためには、児童、生徒、学生の皆さんが熊谷スマートシティの取組を知り、学び、そこで感じたことや想像したことをスケッチで大人たちに伝える場を作りたいと考えています。そして、コミュニティラボではスケッチに参加した人も含めて多様な人々とのつながりをつくり、意見交換をしつつ、同じ方向を目指してまちづくりに関わっていただきたいと考えています。







シーンスケッチコンテスト概要

【募集部門】

1　ＳＦ部門（区分：⑴小学生以下、⑵中学生、⑶一般）
- テーマ：「あったらいいな！こんなまち」
- デジタル化を進めた未来の熊谷市を自由な発想で描いた作品

2　リアル部門
- テーマ「デジタルと人の力で変わる10年後の熊谷市の暮らし」
- デジタル技術やデータを人々の生活や商業、ものづくり、交通や健康、レジャーなどの各種サービス、研究、学び、物流、農業、畜産、水産などの様々な場面を描いた作品を募集します。

【審査過程】

1　第１次審査（事務局審査）
2　第２次審査（WEB投票）
3　第３次審査（審査員審査）　審査員10名
4　第４次審査（最終審査）　審査員6名



【応募総数、ＷＥＢ投票総数】

1　応募作品総数　82作品
- ＳＦ部門（小学生以下）　22作品
- ＳＦ部門（中学生）　4作品
- ＳＦ部門（一般）　19作品
- リアル部門　37作品

2　第２次審査（ＷＥＢ投票）参加人数　89人
- ＳＦ部門（小学生以下）　66人
- ＳＦ部門（中学生）　4人
- ＳＦ部門（一般）　10人
- リアル部門　11人

【表彰、賞品】

- 審査員がコメントした方に表彰状

副賞等
- 最優秀賞　地域電子マネー「クマＰＡＹ」２万円分
- 優秀賞　地域電子マネー「クマＰＡＹ」５千円分
- 奨励賞　中学生以下の方（スケッチ用無地ノート）㈱まちづくり熊谷様から提供）
- 参加賞　スマートフォン用デジタル壁紙（作品入り）

KUMAGAYA SMARTCITY

受賞作品

KUMAGAYA SMARTCITY

リアル部門

受賞作品（リアル部門･最優秀賞）

「名犬！お世話ロボぽっち」　新井　麻未/（アルスコンピュータ専門学校）



【作品説明】

熊谷市がより発展する未来を思い描いた時、何よりも必要な事は共に歩む市民が心身ともに健康に暮らせる街作りだと私は思いました。

そこで、私が考えたのが愛らしい動物の形を模した「補助特化型アンドロイド」です。こういったデジタル技術が日常として浸透していった熊谷市ならば、進む少子高齢化により深刻化した人手不足や市の抱える他諸々の難事に対しても臨機応変に対応できる「スマートシティ」が実現できると思います。

受賞者コメント

この度は、シーンスケッチコンテスト リアル部門の最優秀賞に選んで頂き誠に光栄に思います。

熊谷市の掲げる将来都市像と現在のデジタル技術の実現可能範囲を考えつつ、自分の考える「あったらいいな」の想像をめいっぱいに詰め込んだ結果生まれたのが「お世話ロボット」の存在でした。

リアル部門に応募する上で必須である「大人としての現実的な意見」も大切にしつつ、「子供のような欲張りで夢のある発想」を捨てずにアイディア出しを続け、相反する二つをまとめて一つの「形」にする事が出来たのが何よりも嬉しかったです。

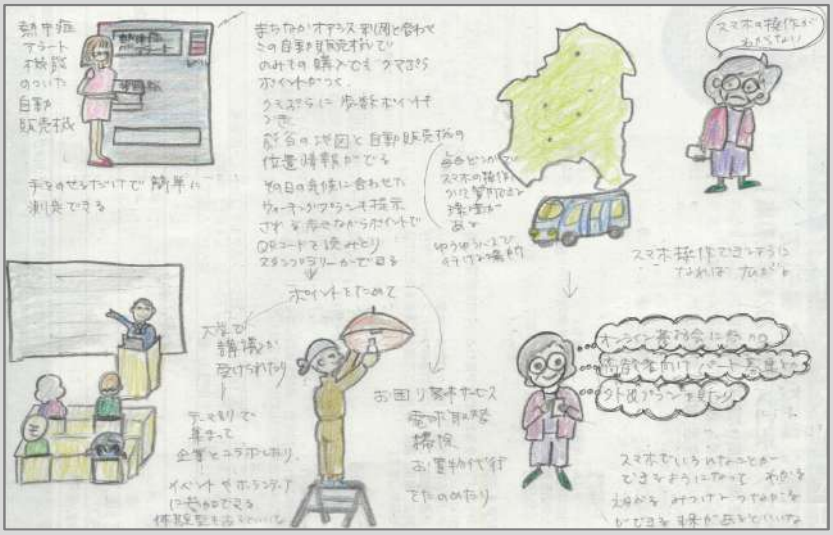
この度は誠にありがとうございました。

審査員講評

- 技術の利用可能度合いによってさまざまな事にさまざまな形で対応できるのが動物の形をしたお世話ロボだと思いました。子供からお年寄りまで、さまざまな世代のニーズに対応できそうです。【江頭】
- いろんなシーンでお世話してくれるロボット犬が実現するとよいと思います。【鈴木】
- デジタルサービスをリアルなロボットから受けられる新たな形となる良いアイデア。犬型にこだわらず、各人の好みに合わせた形のロボットにすることもできる。【深田】
- この提案の素晴らしいところは「共に歩む市民が心身ともに健康に暮らせる街作り」のために、「使用者の方に合ったサポートの提供」が提案されているところです。ロボットだけれども愛らしい相棒のような存在が、人と行政をつないでくれる、行政職員にかわって対応してくれるのは頼もしいです。【芥川】
- まず高齢化社会に役立つ期待が持てると思いました。また、現在AI技術によるロボットのペットも存在していることから、汎用性の高いものかと思います。ただ、熊谷市に限定しなくてもよい作品でもあるのでそこが残念です。【竹内】

受賞作品（リアル部門･優秀賞）

「高齢者もスマートシティ熊谷で幸せになる」　菊池　節子/（学生以外）



【作品説明】
　スマホ操作のサポート環境を整えてもっとデジタルを活用できる未来に

受賞者コメント

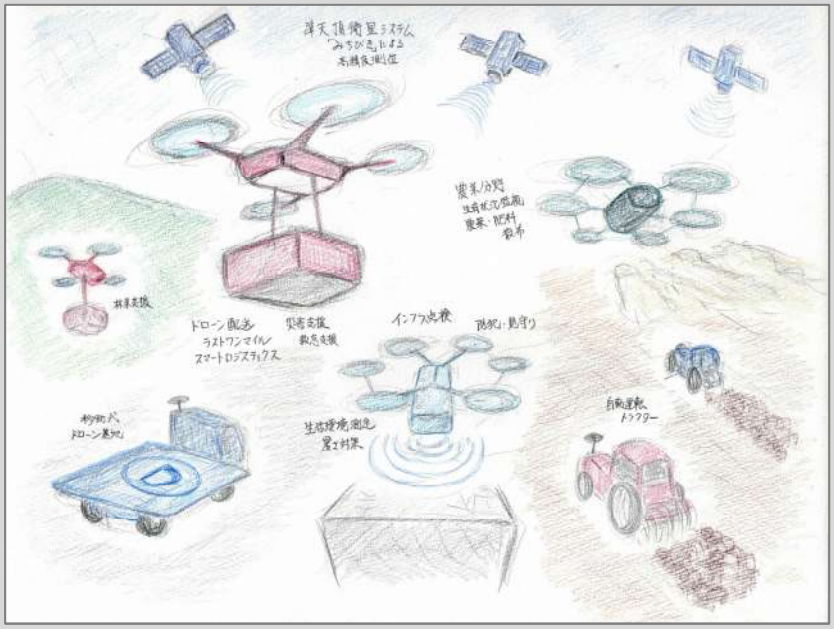
　この度は優秀賞に選んでいただき、まことに有難うございました。熊谷の学校に娘が通うようになって、熊谷は私にとっても身近なまちになりました。娘を通して熊谷のイベントやお祭りや美味しいものに触れていくうちに、熊谷に興味を持ち、いろいろ調べるようになりました。熊谷の未来を考えるこのコンテストに向け、更に調べ考えている時間はとても楽しかったです。
　デジタルを使った様々な取り組みを高齢者が使いこなせる環境を作れば、若い人の負担を減らすことにつながるのではないかと日頃思っています。その思いから「高齢者もスマートシティ熊谷で幸せになる」と題し、まずは、スマホ操作のサポート環境を整え、高齢者が熊谷のデジタルを使った様々な取り組みを活用できる未来を考えました。

審査員講評

- 高齢者のデジタルデバイド問題に着眼し、すべての市民がスマートシティの機能を享受できるようなアイデアが良い。【深田】
- 「わかる、えらべる、みつける、つながる」ができる未来があるといいな、絵の右下に書かれた言葉のとおり、生活の中に溶け込むスマートシティの価値を、とても深く考えてご提案いただきました。ここに描かれている一つ一つのユースケースが秀逸であるだけでなく、デジタル技術が生活にもたらすささやかな価値が連鎖して、暮らし方の選択肢が大きく広がっていく様子まで描かれていて、素晴らしいです。実現していくには住民と行政だけでなく、企業や商店、ご近所さんなどの多くの方々と対話をしながら、少しずつ参加の輪を広げていく必要があります。この絵が対話のきっかけになっていくことを期待します。【芥川】

受賞作品（リアル部門･優秀賞）

「未来への飛翔」　福島　英樹/（学生以外）



【作品説明】

少子高齢化や人口減少など様々な社会の課題がある中で、ＳＤＧ’ｓを達成するためには、日々進むＤＸを活用し解決につなげたい。その中で、ドローンの活躍は、時間や距離の制約を取り除くキーとなる。

受賞者コメント

10年後の熊谷市をスマートなものにするため、活用が期待されるデジタル技術は何か。

少子高齢化、人口減少が進む中で、農林業分野の就労者減少と高齢化は顕著である。また、温暖化など気象や気候の深刻化などの課題がある。

運輸分野、特に近距離の配送には、多様な生活様式による再配達を含めた宅配の増加、人手不足、買い物弱者対策などの課題がある。

インフラ関連では、たくさんの改修の事前調査や定期点検を待つ建物があるが、人件費や足場等の経費高騰の課題がある。

橋、道路がなくても、「空の道」を使って現場に駆けつけられる機動性はもとより、近距離における運搬能力に優れたドローンは、センサー技術、高精度の自動運転など進化が続いている。経費を削減し、既定手段の効率化により各課題をスマートに解決できると考え、その活躍シーンを描いてみた。

今年は、ドローンを描いた作品が多く、皆さんの様々な発想に大変勉強になった。

審査員講評

- ドローンを活用した包括的な未来都市の構想が描かれています。インフラ点検や防犯見守り、環境測定など、継続的な社会システムとしての運用が考えられており、移動式ドローン基地の発想など実現可能性も高いと思います。【北上】
- 直面する身近な社会課題を一つ一つＤＸ・ドローン等を活用したスマートな解決をしたいという志が感じられる。ドローンの取り組みなどは来年度にも取り組めそうである。【酒井】

受賞作品（リアル部門･奨励賞）

「熊谷をヴェネツィア化!!」　鈴木　裏乃/（アルスコンピュータ専門学校）

【作品説明】
　熊谷の夏は暑いので、星川の川幅を広げることで涼しさが増すのではないかと思います。10年後のことなので、川幅を広げる工事もアリかもしれないと思いました。さらに移動手段は船にして星川を移動できれば観光地にも…？橋もリニューアルして、ヴェネツィアにあるような橋があるとオシャレだと思いました。



審査員講評

- 星川は大気の冷却効果を期待できるだけではなく、住民のストレスを緩和する心理的安心感を与えてくれる熊谷のシンボル的な河川だと思います。そのような効果を最大限に発揮できるような改修アイディアは重要な視点だと思います。【白木】
- 星川をヴェネツィア化!!して、熊谷の真ん中において、涼しくてみんながコミュニケーションをとれる場所ができるといいですね。　【三宅】

「外まわりお助けロボ隊」　森　美和/（学生以外）

【作品説明】
　草むしり＆草刈りロボ、水陸両用カメロボ、空陸両用パトロールロボ、地面担当お掃除ロボ



審査員講評

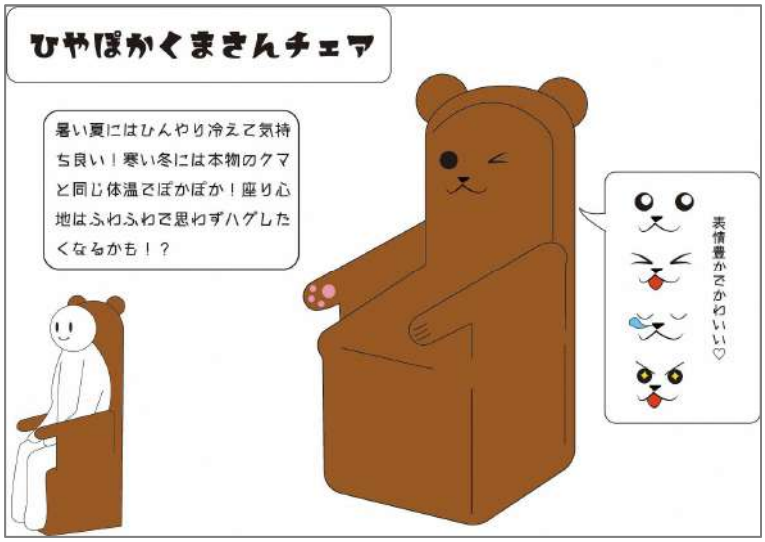
- 経産省IPAのサイバーセキュリティ対策の施策として「サイバーセキュリティお助け隊」がある。それの生活支援版か。この多種多機能なロボの中距離の移動はドローントラックが運ぶだろう。来年度よりの取組みが期待される。【酒井】
- 外まわりお助けロボ隊が、農作業とまちのお掃除ができるとありがたいですね。ロボットが活躍する熊谷市になると嬉しいです。【三宅】

- 住宅や公園など都市の日常で使えるロボットのユースケースを、独創的ながらも素直な生活者目線で考え、ご提案いただきました。戸建て住宅の設備の修繕や管理を支援してきた造園･庭師･大工などの就業者数は、高齢化と後継者不足により急減しています。雑草の草刈り、雨どいに詰まる枯れ葉の掃除、庭木などの害虫駆除、落ち葉掃除など、居住者にとってなかなか手を回せない「生活の困りごと」をロボットに手伝ってもらうことは、時代の要請でしょう。ロボットを地域にどう導入し管理運用していくのか、この絵が議論のきっかけになることを期待します。【芥川】
- 外での作業が得意なロボットということで、自然環境が厳しい熊谷にはうれしい助っ人になると思いました。外作業を担うべき若い人の人口が減りつつあるなか、切実なニーズがあると思います。【江頭】

受賞作品（リアル部門･奨励賞）

「ひやぽかくまさんチェア」　江田　結菜/（アルスコンピュータ専門学校）

【作品説明】
　熊谷は夏の気温が高いので、駅などに設置できて、かつ涼しくなれるような椅子があったらいいなと思いました。夏には涼しくなるだけでなく、冬には暖かく過ごせるようなものがいいと思い、この作品を作りました。

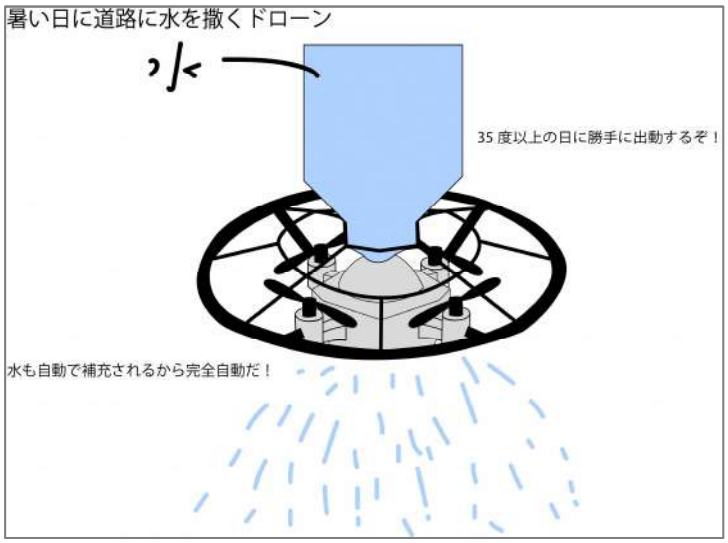


審査員講評

- ひやぽかくまさんチェアが駅などにあると夏の暑い日に必ず取材される熊谷で涼んでいる風景が取材されるとよいですね。【鈴木】
- 街角に椅子を配置することで新しいコミュニティ空間を生み出せる点、また、椅子に冷暖機能を組合せ、熊谷市の気候問題への対策に寄与するアイデアが素晴らしい。多数の市民が集まれることを考えるとベンチ型にしてもよいと思う。【深田】
- くまと椅子のコラボレーションがデザイン的にも親和性が高く、座る人々もSNSで話題にしてくれると思います。座りたくなって人が呼べる素敵なベンチですね。【並木】

「水撒きドローン」　青木　春瑠/（アルスコンピュータ専門学校）

【作品説明】
　熊谷は暑いことで有名です。ですが最近の夏は特に暑くて熱中症も多くでています。熊谷が暑いのは諸説ありますが、今回は道路のアスファルトの熱の対策でこの水撒きドローンを発表させていただきました。この作品は、お店の人が暑さ対策で店の前で水撒きをしているのを、参考にさせていただきました。水を撒くだけですが、熱い道路に水を撒くと蒸発し、熱を奪おうという算段で作らせていただきました。



審査員講評

- 水を自分で補給できるようになっているのでしょう。ドローンのパワーが増せば、大量の水を運べて消火活動にも役立ちそう。【江頭】
- 水を撒くドローンは農業にも喜ばれるので、ぜひ実現してほしい。パワーだけの問題なので、実現しやすそうで話題になると思います。【並木】

受賞作品（リアル部門･奨励賞）

「クマPAYでピーアール」　岩本　裕翔/（奈良中学校）

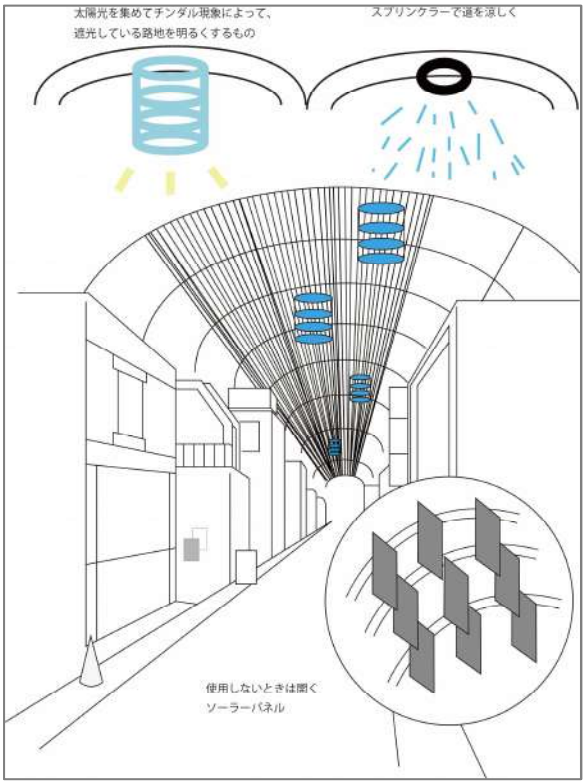
【作品説明】
- 農家から直接野菜などを「クマPAY」で買い、新鮮で輸送も楽で地球に優しい事業
- お店は「クマPAY]で野菜を買うとお得に買え、農家は「クマPAY」で野菜を売ると熊谷市に援助してもらえて、しかも熊谷市の野菜などをピーアールできる。



審査員講評

■ 熊谷市の農家と商業施設を繋ぐ取組として有効ではないかと思います。地産地消の推進と熊谷市としての強みが増すこと。そのようにお店も一次産業も活性化すれば熊谷市自体に魅力ができそうですね。【竹内】

「多機能ソーラーアーチ」　飯塚　魁獅/（アルスコンピュータ専門学校）



【作品説明】

商店街などの路地を、暑い夏でも歩きたくなるような場所にするための設備を考えました。

アーチ状に路地を覆うように設置されたソーラーパネルで日除け＋発電、暗くなりすぎてしまう問題を太陽光を利用したエコ照明で解決、ミストを噴射して蒸し暑い夏を涼しく過ごせるような仕組みとなっています。

審査員講評

■ 暑さ対策に着目し、ソーラーパネルによる日除けと発電、エコ照明、ミスト噴射を組み合わせた総合的な提案で、商店街の路地という身近な空間を、環境に優しく快適な場所へと転換する着眼点が良いと思います。人々が集まり、にぎわいを生む可能性を感じさせる提案となっています。【北上】

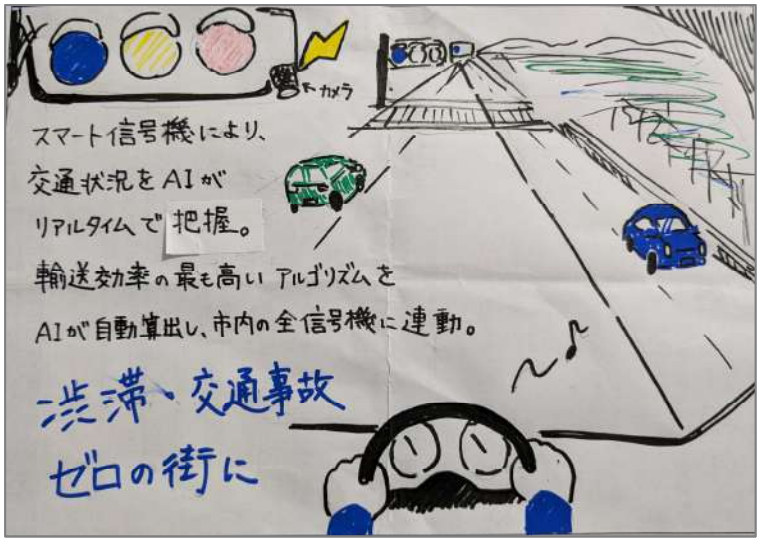
■ 夏場は暑く、冬は寒い熊谷市にとって、商店街を日中も快適に過ごせることは非常に有意義かと思います。駅ビルなどの商業施設はもちろんなのですが、やはり「熊谷市だからこそ」である商店街や商業施設が活性化してくれると発展していけるのではないでしょうか。【竹内】

受賞作品（リアル部門･奨励賞）

「スマート交通システム」　福田　誠/（学生以外）

【作品説明】

AI搭載のカメラ付き信号機を市内に設置。交通状況をAIがリアルタイムで把握し、全体の輸送効率的が最も高くなる信号の配置を瞬時に自動演算し、市内の全信号機と連携する。それにより、常に最適な交通状況とする最適な信号表示がされるため、不必要に信号で待たされることもなくなり、信号での待ち時間も大幅に削減。最終的に渋滞･交通事故ゼロの街を実現する。



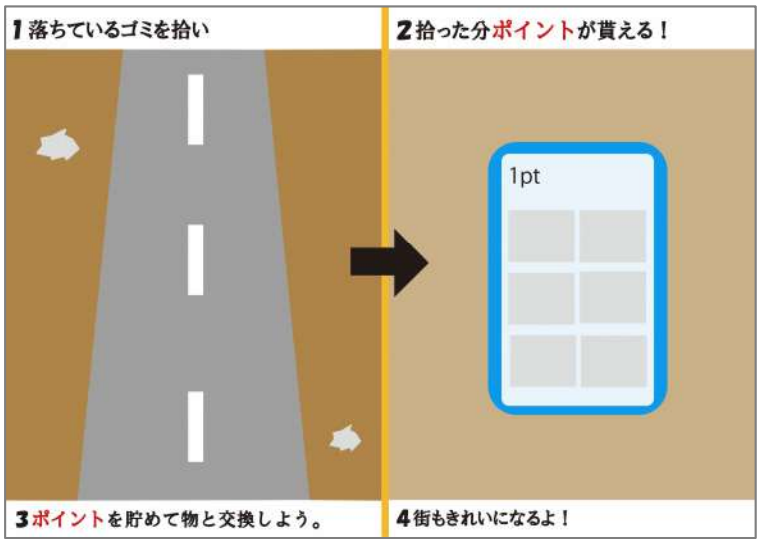
審査員講評

■ 既存の交通インフラを活用しながら、AIによる効率化を図ることで、安全で快適な街づくりを目指す提案、大変良い発想だと思います。渋滞解消による市民の利便性向上や、事故防止への貢献が期待でき、実現性の高いアイデアだと思います。【北上】

「ゴミを拾って街を綺麗にしよう」　岩嵜　瑠依/（アルスコンピュータ専門学校）

【作品説明】

この作品は熊谷に落ちているごみを沢山拾って街を綺麗にしたいと思いこの作品を作りました。また、ただごみを拾うだけだと大変なので、ごみを拾った分ポイントがたまるようにすればみんなも積極的に拾うと思いポイント制にしました。



審査員講評

■ ゴミ拾いとポイントをデジタルで解決する提案でよいと思います。リアルな事例として関係がない人がゴミ拾いとその後コーヒーを飲み語り合う一見関係性がないイベントが流行っています。この案ももっといろんなものを連携できる可能性があると思います。【鈴木】

受賞作品（リアル部門･奨励賞）

「Bear Bear」　石井　歩美/（アルスコンピュータ専門学校）

【作品説明】

熊谷桜堤や熊谷ドームなど歩く中での街の風景も熊谷のいいところだと思います。そんな熊谷を歩きながら散策してくれたらいいなという想いで、Bear Bearアプリを考えてみました。熊谷には夏の風物詩、うちわ祭りや熊谷花火大会があり、そういったイベント行事にはポイント2倍といったサービスをつけ、より行事へ参加してもらい、ワイドナイツサイクルシェアリングを利用してもポイントが増える仕組みになっています。



審査員講評

■ 熊谷を歩きつくすためのアプリとして期待が持てます。地図アプリと連携して、運動、健康やマーケティングに発展してほしい。【並木】

「『Re:Earth』を活用したシュミレーション構築機能」
石橋　拓哉/（アルスコンピュータ専門学校）

【作品説明】

Re:Earthの機能を使い、熊谷の街に新しい施設を構築したらどのような発展や現象が起こるのか、その施設があればより熊谷の街が豊かに賑わいのある街になるか解析できる、そんな機能があればと思い考えました。少しでもRe:Earthをたくさんの人々に使っていただき、熊谷をより発展していただきたいと思い機能のアイデアを考えました



審査員講評

■ せっかくできている『Re:Earth』を活用したシュミレーション構築機能が実現できると素晴らしです。【三宅】

受賞作品（リアル部門･奨励賞）

「関東一の小麦処･熊谷で麦刈りロボット大活躍！」　長島　稔/（学生以外）

【作品説明】

- 熊谷市は、関東一の小麦の作付け面積を誇る小麦処で、6月の収穫期、いわゆる麦秋には一斉に麦刈りが始まります。
- 実際の作業では、自動コンバイン等も使われていますが、手刈が必要な狭い農地だったり、小麦の背丈が低すぎたりする場合は、使用制限があります。
- そんな時、この麦刈ロボットがあれば大丈夫！　素早くスムーズに刈り取ります。さらに、脱穀や出荷まで、この1台にお任せ！　Adobe firefry



審査員講評

■ 食料自給率を上げる現実的なロボットか。茨城では「ドローン管理米」を栽培している。小麦の栽培方法も改善するとドローン直播種＆農薬･肥料散布、自動コンバイン＆麦刈りロボで、軽トラの中からの操縦･監視で農業が出来るかもしれない。【酒井】

熊谷市の
未来発見！！



©Kumagaya City

ＳＦ部門
（小学生以下）

受賞作品（ＳＦ部門（小学生以下）・最優秀賞）

「いつでもかいてき一人乗りタクシー」　宮澤　慧羽/（三尻小学校）



【作品説明】

- 「安心」お年寄りや赤ちゃんと一緒でも乗れる
- 「安全」電気で動く、自動運転、充電も簡単
- 暑い日も寒い日も快適！
- 大きさも小さく、自転車と同じくらいの大きさで邪魔にならない
- 学校まで行くのが暑くて大変だからこんなものがあったらいいなと思って描きました。

受賞者コメント

今回、最優秀賞をいただき、とてもうれしく思うとともに、とてもおどろいています。
作品については、学校まで登下校するのが夏はあつく、冬は寒いので、一人乗りで場所をとらない乗り物があったらべんりだなと思って考えました。

審査員講評

■ 人口減少が予測される熊谷市では、こんなタクシーの登場が切に待たれます！空を飛ぶかもしれませんね。公共交通機関のカバレージの低い地域も多いため、自動運転バス等他の手段と合わせて交通手段を提供する際のオプションとして有効だと思います。【江頭】

■ 誰もが安全・快適に移動できる未来の乗り物として、ユニバーサルデザインの発想が素晴らしく、人々の暮らしに寄り添った提案だと思います。自動運転やコンパクトなサイズ設計など、実現可能性の高い工夫が随所に見られます。【北上】

■ グリーンスローモビリティの発展形として、1人乗りに特化することで、狭小な道路等でも活用が可能。自身の課題意識・ニーズから具体的に発想していることも着眼点がよい。【深田】

■ 一人乗りタクシーを登校に使いたいという願いが描かれています。自動運転の超小型モビリティに高い関心を持っていただいているご様子です。
この先、熊谷市でも地球にやさしい様々な乗り物、たとえばグリーンスローモビリティなどの実証実験が行われていくでしょう。
ぜひ見て、聞いて、体験していただき、実装に向かって一緒に頑張っていきましょう。【芥川】

受賞作品（ＳＦ部門（小学生以下）・優秀賞）

「もう「暑い」とは言わせない熊谷」　野口　縁人/（太田小学校）



【作品説明】
　暑い熊谷の夏を快適に楽しく過ごすためにこうなったらいいな、という想いをえがいてみました。

受賞者コメント

　優秀賞に選んでくれてありがとうございました。
　打ち水車は、8月に友達と参加した打ち水大作戦から考えてこの車を作りました。巨大樹は、市全体をおおって涼しくさせたいという気持ちで描きました。巨大室内プール施設は、こんな暑い熊谷なのに水遊び場が少ないのでウォータースライダーや、流れるプールがある巨大室内プール施設があればいいなぁ、と思いながら描きました。
　受賞できて嬉しかったです。

審査員講評

- 気温を緩和する効果を期待して「植樹」という考えは一般的ですが、巨大樹を植えるという考え方はSFとしては大いに「アリ」だと思います。町全体が一気に涼しくなりそうですね！日が全く当たらなくなると、洗濯物などが乾かなくなってしまうので、おうちの人が困ってしまうかもしれませんが･･･。【白木】
- もう「暑い」とは言わせない！と宣言するスタンスに感動しました。その通りで、沢山の知恵を使って熊谷ってすごいと言われるようにしましょう！【三宅】
- 熊谷の暑さ対策として、自然の力を活かした巨大樹による木陰づくりや、伝統的な打ち水の知恵を現代的にアレンジした打ち水車など、環境に優しい解決策を提案している点が素晴らしいと思います。木陰やプール施設で人々が集い、交流できる場所を作ることで、暑い夏を市民みんなで楽しく乗り切ろうという想いが伝わります。自然と人工物を上手く組み合わせた発想力も素晴らしいと思います。【北上】
- 熊谷の暑さ対策に様々なアイディアがでましたが、大樹とは良いですね。その発想の自由さが好きです。打ち水や木陰など、古来の【涼しさ】を得る手段を考えるのも大切ですね。【竹内】

受賞作品（ＳＦ部門（小学生以下）・優秀賞）

「ロボットと快適に暮らす熊谷」　楊　孝愛/（熊谷西小学校）



【作品説明】
ロボットと快適に暮らす熊谷

受賞者コメント

この度は、熊谷シーンスケッチコンテストＳＦ部門（小学生以下）において、優秀賞にしていただき、心から感謝しています。

まだ見ぬ熊谷の未来を想像して、私は、ＡＩロボットと暮らしてゆく、現在よりももっと便利な世界にと思っています。例を挙げると高齢者や障害者、そして子供たちなどが毎日楽しく暮らしていけるよう、ＡＩロボットには、「動ける、喋れる、遊べる、作れる」などの様々な機能を入れ、毎日がよりパッピーになっていけるようにと思っています。

審査員講評

- ロボットと快適に暮らす未来の熊谷が良く表現されているよい作品です。【鈴木】
- 人もロボットも、表情が豊かで優しさと希望に満ちた未来が描かれています。とくに調理をするロボットの表情が素敵で、ロボット自身が「おいしいものを食べてほしい」と思っているようにも見えます。
  人が「ロボットと快適に暮らす」には、人とロボットの信頼関係を築く必要があります。人はロボットに多くの期待をし、期待に確実に応えてくれるよう願い、開発者は高度な機能開発に挑戦するでしょう。一方で急速なAI・ロボット技術の発達がもたらす劇的な変化に、社会が適応できるようになるまでの間、さまざまな問題が出てくるでしょう。
  研究者や開発者、技術者、ユーザーが、こうした難しい問題に立ち向かうとき、この絵に表現された世界観そのものが励ましと希望を与えてくれることと思います。【芥川】
- ロボットと人が身近に寄り添っているところに交換が持てます。人口減少にも歯止めがかかりますね。【並木】

受賞作品（ＳＦ部門（小学生以下）・奨励賞）

「熊谷の町を守る「ニャオザネ」ドローン」　渋澤　春乃/（別府小学校）

【作品説明】

- 火事を見つけ次第消防に連絡。消防が来るまで消火活動を行う。
- 28℃以上になったら雪で周りの気温を下げる。
- 泥棒などを見つけ次第センサーが反応し、警察などに通報。そのあとも追跡。
- 椅子や机などに降り、ドローンが水を配り水分補給。
- けが人を見つけ次第絆創膏をあげたり、治療を行う。けがの具合で救急車を呼ぶ。



審査員講評

■ SFのアイディアとして「ドローン」は頭に浮かびがちですが、無機質なドローンに愛着が湧きやすいニャオざねの顔（しかもイベントによって表情が変わる顔を！）を投影させるというのは、素晴らしい発想だと思います。【白木】

■ 面積が広い熊谷では、ドローンのような機動性の高いツールが役立つ場面が多いと思います。よくある見回りのような役目だけでなく、気温を下げる為のアクションなどにも使う発想がユニーク。【江頭】

■ ドローンに複数の用途・機能を持たせ、有事に対応するアイデアを小学生が発案している点が素晴らしい。様々な課題に対応ができ、よりよいまちづくりに寄与ができそう。【深田】

■ ドローンを使って、熊谷のまちでもっと安全に、もっと安心に暮らしたいという願いが詰まっています。検知した異常をもとに素早く消防・警察に連絡し、初期消火や応急処置、警告・追跡などの初動を自動的に行うという発想と、熱中症予防のために気温を下げる・水を配るといった発想が、同じドローンが提供する機能として素直に描かれているところが、大人にとっては新たな気づきではないでしょうか。担い手が不足し、設備投資も効率化していく必要が出てくる将来に向かって、それはどこの組織がすべきことだ、それは個人の自己責任だと割り切らない方法を考えていくべき時代が来ているように思います。【芥川】

■近未来SFかもしれないが、行政と市民をドローンとIOTで繋ぐエコシステムがうまく表現されている。小学生以上のイノベーション融合を感じる。【酒井】

■市民を助けるドローンを配置できれば、あらゆる問題が解決しそうで期待します。【並木】

受賞作品（ＳＦ部門（小学生以下）・奨励賞）

「ようこそ！未来の熊谷へ」　新井　うた香/（三尻小学校）

【作品説明】

- 「ラグビー博物館」熊谷はラグビータウンとも言われるので、ラグビーのことがわかる博物館を描きました。
- 熊谷のシンボル「BIGせんぷうき」。駅前に作り、夏はミストを出し、冬は暖房を出す。
- 「エコ木」熊谷の暑さ、寒さを利用したもの。寒さや暑さを吸い込み、蓄積して寒い空気を夏に、暖かい風紀を冬にビッグ扇風機から出す。
- 「日傘付きランドセル」夏の登下校を少しでも涼しく。



審査員講評

- 夏はミストを出し、冬は暖房を出す「BIGせんぷうき」があると熊谷市のシンボルになると思います。そして「エコ木」が、寒さや暑さを吸い込み、蓄積して寒い空気を夏に暖かい風を冬にビッグ扇風機から出す。というコラボの仕組みが素晴らしいです。【三宅】
- ラグビーという特色を生かしたアイデアがよい。「エコ木」のアイデアは、循環型社会の実現にも通じるアイデアであり、環境政策にも適している。【深田】
- ビッグ扇風機が印象的です。夏の気温が高い熊谷市だからこそ、このような設備は印象的になりそうですね。【竹内】

「じこ、じけんゼロのまち」　齋藤　圭/（太田小学校）

【作品説明】

　まいにち、学校に行くとき、みまもってくれている人たちを思いだしてかきました。あと、おはなしできたりするニャオざねのキーホルダーがあったらいいな、とおもいました。



審査員講評

- ご当地キャラクターのニャオザネが、その魅力をいろいろなITツール上で発揮していてニャオザネへの愛を感じました。【江頭】
- ロボットやキーホルダーによって事故や事件がゼロになる未来を提案している良い作品です。【鈴木】
- 事故・事件がゼロになるというのは素敵です。テクノロジーを理解して現実味を感じる作品です。【並木】

受賞作品（ＳＦ部門（小学生以下）・奨励賞）

「スマートシティ　KUMAGAYA」　川原田　蒼昊/（大幡小学校）

【作品説明】
　空に虹が浮かび、生き物たちが楽しく暮らせる街を描きました。近代的な空を飛ぶ車やドローンで配達物を運んでいたり、地球が浮かぶ噴水、大きなビル、家や道など、住むのが楽しくなる街を想像して描きました。

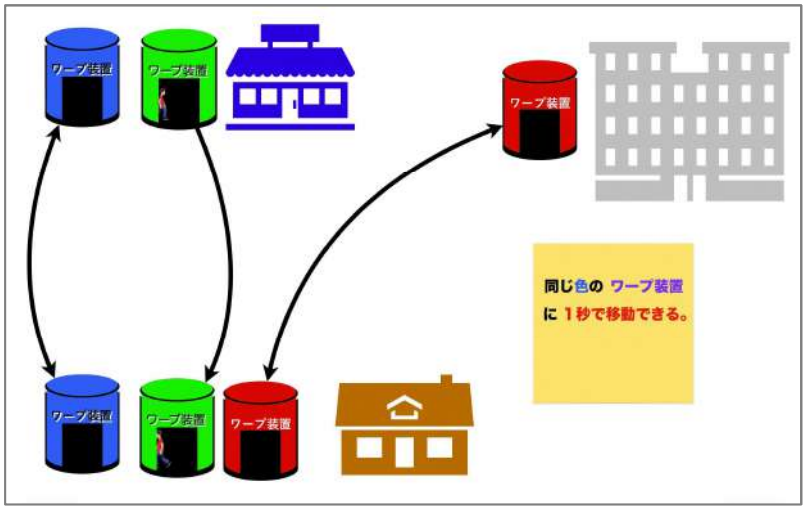


審査員講評

- 空飛ぶ車やドローン配達という未来的な要素と、地球環境・生き物たちが共存する優しい世界が表現されています。テクノロジーの発展と自然との共生の視点が込められた素晴らしいスケッチだと思います。【北上】
- 暑さを飛び越えて「虹」のある街、生活のイメージがとても良い。「虹と緑のある生活」どこかのオンライン百貨店のCMのキャッチコピーになりそう。【酒井】

「ワープ装置があるまち」　小林　誠悟/（男沼小学校）

【作品説明】
　目的地に行くのに時間がかからないので、楽に移動できることを表現しました。



審査員講評

- 合併により広大な土地をもつ熊谷の優良な施設をつなぐことは、他市町村からの観光客にとってありがたいことかと思います。【竹内】

受賞作品（ＳＦ部門（小学生以下）・奨励賞）

「すみやすい未来」　栗原　裕子/（市田小学校）

【作品説明】

- レジに行っていない人を特定したり、ナイフなどを持っている人を見つける監視カメラ。
- 地球温暖化を防ぐためには、省エネや水を大切にしたり、植物を育てると地球温暖化を防ぐ。
- 暗闇の中でもセンサーがついていて、人が通るとライトがついて、いなくなると消える。
- フードロスを減らすには、食べ物を買いすぎない、作り過ぎない、食べきることが大切



審査員講評

■ スマートな市民生活が素直に描かれていて好感が持てる。毎日描かれているようなことを考えながら過ごしている様子が読み取れる。このビジネスエコシステムは今でも構築できそうである。【酒井】

熊谷市の
未来発見！！



©Kumagaya City

KUMAGAYA SMARTCITY

ＳＦ部門
（中学生）

受賞作品（ＳＦ部門（中学生）・優秀賞）

「すずしい熊谷に！」　滝井　心晴/（奈良中学校）



【作品説明】
　とてつもなく大きな木があって、大きな日陰を作ってくれる。毎日違う色で違う表情のひんやりしたテディベアが木の上から落ちてくる。

受賞者コメント

　このたびはこのような賞をいただき、とても光栄に思います。正直なところ、とてもおどろきました。
　デジタル化を進めた未来の熊谷が、今とあまり変わらず緑豊かで素晴らしい街でいてほしかったので、たくさんの人が休めるようなとても大きくて、災害がもしも起きても絶対にたおれない木を描きました。
　私はふわふわとしたかわいい物や動物が好きです。なので小さくてふわふわとしたクマが様々なことを手伝ってくれたらいいなと思ったので、クマが手伝いをしてくれる街になっています。
　未来の熊谷は、今よりも暮らしやすく、緑豊かな所になってほしいです。

審査員講評

- カプセルトイからアイディアが浮かんだのでしょうか。他の人が考えないような面白い発想だと思います。出てくるクマも「日なたに打ち水をしてくれる」「違う色で違う表情」というところが可愛らしく、こんな町だったら住んでみたいと思わせてくれるような作品だと思います。【白木】
- 熊谷のシンボルになるような大きな木があって、そこにいろいろなものが集い交流が生まれ、夏には涼しさも提供してくれる。ほのぼのとしていて温かみを感じます。昔のTVコマーシャルを思い出しました。未来はテクノロジーだけで成り立つわけではない、ということに気づかされました。【江頭】
- 大きな木陰とクマ（ロボット？）、とても独創的で魅力的です。熊谷の暑さ対策を、ファンタジックで楽しい要素と組み合わせた点が素晴らしいと思います。動物との会話ができるロボットという設定も人と自然の新しいつながりを感じさせます。【北上】
- 自然（木）を活用したアイデアは、環境保全の観点でもよい。自然を軸にデジタルを組み合わせる次のアイデアにつながりそう。【深田】
- おとぎ話のような世界観で、熊谷を涼しく過ごし、お友達や動物たちと楽しく遊ぶためのアイディアを、たいへん自由な発想で考えていただきました。「すべれる橋」「大きな木の日かげ」の発想は、猛暑の炎天下、大きな橋を渡って登下校している生徒さんの発想かもしれません。幸福や希望の象徴である青い鳥が木の上から落としてくれるテディベアは、涼しさを運んでくれるだけでなく、お友達と楽しそうに会話をしたり、テディベアが動物の言葉を翻訳してくれたりと、コミュニケーションを仲介してくれる存在であるというところも、注目すべきポイントと思います。涼しく快適に、いつでも楽しく、幸せに暮らしたいという、作者の願いを強く感じました。【芥川】
- ＳＦか近未来か？タイトルにあるように、自由な発想でイラストを実現して欲しい。【酒井】
- 樹から落ちてくるテディベアに触ってみたいです。熊谷の名所に設置するとよいかもしれませんね。【竹内】
- シンボルツリーがあることで、シビックプライドが高まると思います。これだけ大きな木なら人も多く呼べそうです。【並木】

受賞作品（ＳＦ部門（中学生）・優秀賞）

「空飛ぶラグビーボール」　笹沢　來未/（奈良中学校）



【作品説明】

- ラグビーボールを投げるだけで家に届く。
- ラグビーボールに好きなメッセージが書ける。色が選べる。柄が選べる。

受賞者コメント

冬休み中、学校から電話が来て、優秀賞に選ばれたと聞き、とても驚いてうれしかったです。

この「空飛ぶラグビーボール」という作品は、熊谷市で有名なラグビーを少しでも皆で日常的にできたら楽しくなるだろうなと思い、人から人へ高い空を通して荷物が届くような案にしました。空を通して投げることで、実際にキャッチできたりしたら楽しそうだなと思いました。また、自分好みのがらや色が選べるので、ただのダンボールとは違い、自分の良さが出てたのしく空へ投げられるだろうと思いました。人の気持ちも色やがらに表せるので、見ただけで伝わり、生活も明るくなると思います。

もし、実現できたら、もっと熊谷市のラグビーが有名になってほしいです。これからのどんどん成長していく熊谷市の未来が楽しみです。

審査員講評

■ 「空飛ぶラグビーボール」がすべてのコミュニケーションを取ってくれると、熊谷市は世界一のスマートシティになれると思います。【三宅】

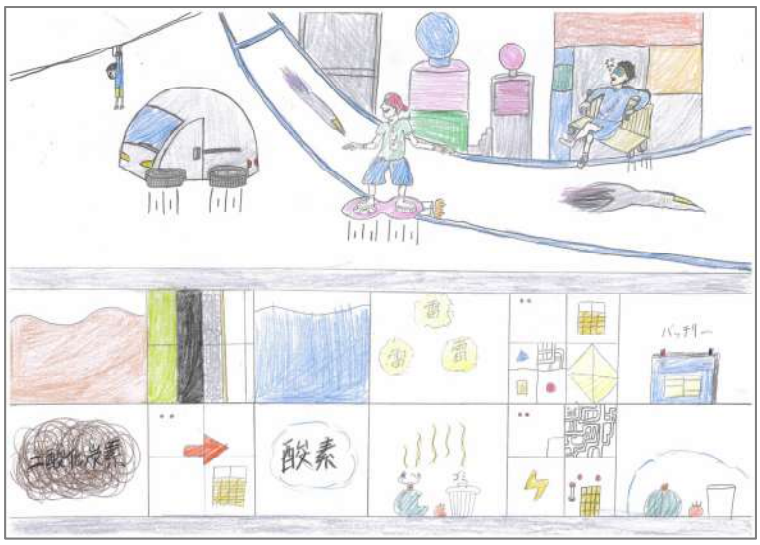
■ 従来型ドローンではなく、ラグビータウン熊谷として、ラグビーボウルが行き交う風景は、夢があります。【鈴木】

■ 輸送に誰かを介さないラグビーボール型の輸送機。これが飛び交う熊谷を想像したら、【ラグビーの町】として認識せざるを得ないですね。熊谷市民が老若男女かまわずラグビーボールを投げるところを想像して、選びました。【竹内】

受賞作品（ＳＦ部門（中学生）・奨励賞）

「みんながよりよく暮らせ、より安全な毎日が続けられるように」
木曽　勇翔/（奈良中学校）

【作品説明】
- 子供をAIが安全に運び、子供を安心させるもの
- 今日起こっている環境問題を、全ての環境が良くなる（改善させる）機械
- AIがバランスよく作動し、みんなの事故を防ぐための自動車



審査員講評

- ■ イノベーションの融合が感じられる。必要・便利は発明の母、社会課題ニーズを解決したい志が見える。【酒井】
- ■ 言いたいことが、見事に表現されています。循環と楽しい感じが伝わってきました。水が綺麗に。空気が綺麗に。自然エネルギーが活用できる。ゴミが植物に！【三宅】
- ■ 近未来の絵として明確なビジョンを感じられる絵ですね。未来社会の実現に技術を利用しており、利用の仕方がイメージしやすいですね。【並木】

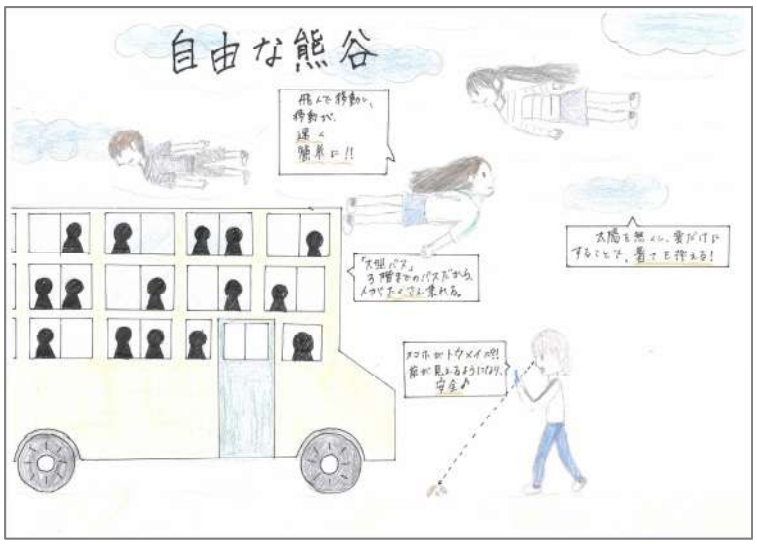
- ■ 先端技術のなかでも環境技術に高い関心をお持ちいただいています。絵の下に表現されているのは、浄水技術、二酸化炭素を固定する技術、雷充電技術、廃棄物のエネルギー利用技術でしょうか。
こうしたそれぞれの技術の支えがあって、その上に人が場所の制約から解かれる自由度の高い世界、メタバースや空飛ぶパーソナルモビリティを使いこなしている世界観を表現していただきました。
この絵からは自由な未来社会を、技術を磨き、技術を組み合わせて支えていきましょう、というメッセージが伝わってきます。環境技術は日本の得意分野ですが、得意であり続けられるよう、みんなで頑張りたいですね。【芥川】
- ■ 二酸化炭素や食品廃棄物の再資源化技術、自然エネルギーの活用など、環境に配慮したアイデアが印象的です。空飛ぶ乗り物による自由な移動手段の提案など、技術と環境が調和した、夢のある未来都市像が伝わってきます。【北上】

受賞作品（ＳＦ部門（中学生）・奨励賞）

「自由な熊谷」　佐藤　悠美/（奈良中学校）

【作品説明】

- 飛んで移動し、移動が速く簡単に！！
- 太陽をなくし、雲だけにすることで、暑さを抑える！
- スマホが透明に？！前が見えるようになり安全♪
- 「大型バス」３階までのバスだから人がたくさん乗れる。



審査員講評

- 雲を操ることによって地上の気温をコントロール出来たら面白いと思いました。自然現象によって自然を制す、ですね。【江頭】
- 暑さ対策として雲を活用するアイデアは、大胆で面白い提案だと思います。技術の進歩が人々の暮らしをより便利で快適にする様子が伝わってくる、夢のある作品です。【北上】
- 飛翔するのにドローンですかね…それとも違う技術ですかね。とにもかくにも自分も飛んでみたいです。スマホの透明化はホログラムみたいなものかもしれませんが、歩きスマホはだめですよ？【竹内】
- 自由という言葉に解放感が感じられます。技術が発展すると実現が見えそうです。【並木】

熊谷市の
未来発見！！



©Kumagaya City

KUMAGAYA SMARTCITY

ＳＦ部門
（一般）

受賞作品（ＳＦ部門（一般）・最優秀賞）

「きみを守るよ！くまべあくん」　石坂　風優/（アルスコンピュータ専門学校）



【作品説明】

　SNSなどを見て、色々な子どもがいることを知りました。なので毎日子どもの安全を守るものが欲しいと思い、考えました。くまべあくんは子ども1人ひとりに1台付いて全力で守ってくれます。AIが判断して最も安全だと思う場所まで入れて、連れて行ってくれます。保護者が危険だと感じればカメラ機能をブロックして守ってくれるかもしれません。子どもの安全が保証されるその時まで、そばにいて守ってくれます。

受賞者コメント

　まさか最優秀賞に選ばれるとは思ってもいなかったので、とても驚きました。選んでくださった方々、ありがとうございます。伝えたかったことが伝わってこの受賞に至ったのではないかと思っていて、とても嬉しいです。

　くまべあくんはAIなので理想通りに使用するのは難しいでしょう。誤作動を起こしてしまう実例が起きてしまうに違いありません。また、子どもたちが使うならステッカーやシールでたくさんデコレーションされたくまべあくんが子どもと歩いているかもしれません。そんなことを想像しながら描きました。

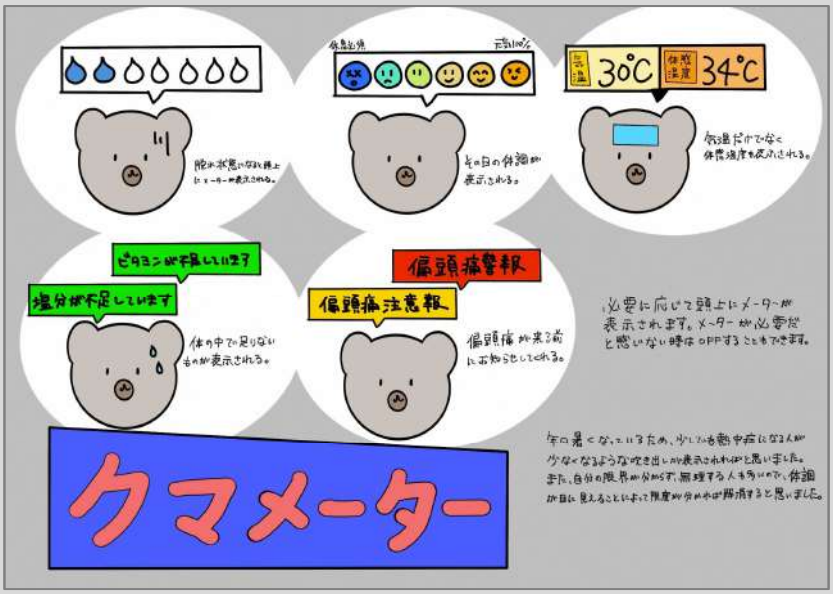
　くまべあくんが必要とされないくらい安心安全な世の中になっていって欲しいです。

審査員講評

- 子供達に対する新たな脅威がいろいろな形で現れてきているので、くまベアくんのようなロボットが子供ひとりひとりの事情に応じたサポートを提供してくれるのは人手も足りないのでありがたいと思います。【江頭】
- 優しく力強いクマ型ロボットが子供を守る提案は面白いです。普段は遊び相手になってくれるんでしょうね。【鈴木】
- 子どもの安全を守るという普遍的な願いを、テクノロジーで実現する暖かい提案。普段は親しみやすいキャラクタとして寄り添い、緊急時には頼りになるボディーガードとなる二面性が魅力的で実用性も高いと思います。保護者の安心と子どもの自由な活動の両立を目指した素晴らしいアイデアです。【北上】
- 子どもを守ってくれるロボットが、子どものシェルターにもなってくれるという斬新なアイディアだと思います。絵も丁寧に描かれ、たくさんの機能を考えていただきました。
  子どもの話し相手がほしい、子どもが察知できない危険を検知してほしい、ただちに子どもが安全に逃げ込める場所がほしいという作者の思いを感じました。ご近所さんと一緒に地域ぐるみでこどもを守り育てることを考えていきたいですね。【芥川】

受賞作品（ＳＦ部門（一般）・優秀賞）

「クマメーター」　清水　美羽/（アルスコンピュータ専門学校）



【作品説明】

人（クマ）の上に体調を表すメーターがある世界を作りました。日本の社会は、体調が悪くても気軽に休むことが出来ないので、体調が可視化されれば無理に強要する人も減ると思いました。また、メンタルが可視化されることによって、自分の気分をコントロールできる材料になればいいと思いました。

受賞者コメント

この度は、選んでいただきありがとうございます。まさか選ばれると思っていなかったので凄く嬉しいです。

この作品を作ったきっかけは、中学生の頃酷い熱中症なってしまったことがあり、熱中症になったことにも気づかずに無理して生活し悪化してしまった経験から、少しでも気づく人が増え、熱中症になる前に対策出来ればと言う想いで作らせて頂きました。特に熊谷は埼玉県の中でもいちばん暑いのでこのようなものが未来にあればいいなと思いました。

審査員講評

- バイタルデータをとって体調を可視化し、さらにビッグデータ化して市政にも生かせるようになればスマートシティがさらに進化すると思いました。熊と目の下のクマをかけてクマクマメーターか。【江頭】
- 人の心と体との関係はまだまだわからない部分が多いです。それがわかる時代が来るとよいと思います。みんなに寄り添う装置ができるとよいと思います。【鈴木】
- 本人が気づかない間にすすむ熱中症やビタミン不足、メンタルのリスクを気づかせてくれるクマメーター、とても丁寧に描いていただきました。本人が自分の状況を知る目的で、実用化されてほしいと思いました。一方で「体調が悪くても気軽に休むことができない」という問題に対して、メーターで客観視した体調情報を見てもらって、配慮してもらうという発想も新しいです。遠隔やリモート、副業やギグワークなど、時代とともに働き方も変化しています。必ずしも日頃から顔を合わせられる職場環境とは限りません。体調情報を表示するクマメーターは、職場を管理する人にも必要になる可能性があります。【芥川】

受賞作品（ＳＦ部門（一般）・優秀賞）

「子供の描くスマートシティ」　竹田　佳都顕/（学生以外）



【作品説明】

この絵は、子供の視点で、未来の「スマートシティ」を表しています。建物はカラフルで、屋上には太陽光パネルが設置され、風力発電機が並ぶなど、環境に優しいエネルギーが利用されています。ロボットが人々の手助けをし、空にはドローンが荷物を運んでいます。自動運転の車が清潔な道路を走り、街中に緑が溢れ、人々が安心して歩ける安全で快適な都市の様子が描かれています。※ChatGPTによる。

受賞者コメント

この度は熊谷スマートシティのシーンスケッチコンテストにおいて、私の作品が受賞したことを大変嬉しく思います。

本作品は、未来のスマートシティがもたらす可能性と希望を表現することを目指し、環境に優しい技術、再生可能エネルギー、そして人とロボットが共生する調和の取れた街並みを描きました。太陽の明るい笑顔や緑豊かな景色は、持続可能な未来への期待を象徴しています。

受賞を通じて、こうしたビジョンが他の方々の共感を得られたことに感謝するとともに、未来へのアイディアを形にすることの重要性を改めて感じました。このような機会を与えていただきましたこと、また選んでくださった審査員の皆様に心より感謝申し上げます。これからも、明るく前向きな未来を描く作品を目指していきたいと思います。

審査員講評

■ 子供が楽しいスマートシティ。少子化対策にもなる。忘れてならないのは、子供の笑顔があふれる街は、シニアも楽しいという事、100年後の日本かもしれない。【酒井】

受賞作品（ＳＦ部門（一般）・奨励賞）

「ニュー熊谷商店街」　小林　仁美/（学生以外）

【作品説明】
　ソーラーパネルの屋根で暑さを軽減するとともに、商店街内のエアコン電力確保。　星川のせせらぎで癒し効果。小型自動運転車両で移動は楽々。ドローンが荷物を運んでくれる。清掃作業でクマポがもらえて、商店街でサービスを受けられる。熊谷に快適に過ごせる商店街があったらいいなを描きました。（CANVAを使用して作成）



審査員講評

- SF感を感じつつも、どこか近い将来に実現するのではないか‥そんな気持ちにさせてくれる作品ではないでしょうか。このような商店街であれば、皆行ってみたいと思いますし、町も活性化しそうですね。【白木】
- 近い将来はこのような風景が実現するでしょう。楽しみです。それが良く書かれた提案です。【鈴木】
- 星川通りの新たな未来の形を示しており、賑わいを生むアイデア。自動運転、ドローンなどの先端技術も表現されており、わくわくする点を評価【深田】
- すてきなイメージが湧きます。技術にマッチした一部だけでも実現することで、市民の求める商店街に近づいていけると思います。【並木】

「エアロブロックシステムとソーラーパラソルで夏を快適に！！」
矢吹　浩一/（学生以外）



【作品説明】
　浮遊する冷却ブロックが周囲の空気を冷却し、自動で開閉するソーラーパネルが強い日差しを遮ります。
生成AIサービス：chatGPT 4o mini、Acrobat

審査員講評

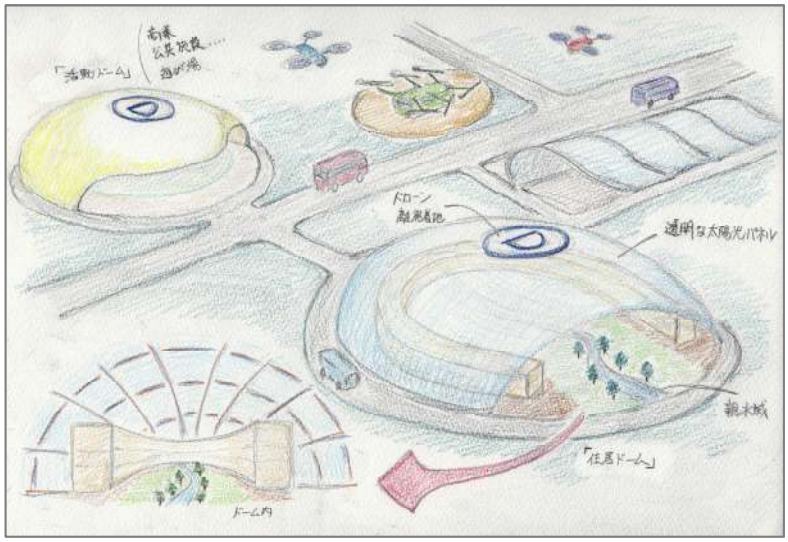
- 「浮遊する冷却ブロック」を見たとき、「そんなアイディアもあるんだ」と素直に感心してしまいました。周辺の気温を下げることだけではなく見た目を綺麗なので、実現したら人気の町になりそうですね。【白木】
- 冷却ブロックが浮遊するアイデアは独自性があり、素晴らしい。ブロックにセンサーやカメラを搭載することで、見守りや空中サイネージなどの発展性もあり、夏の暑さ対策以外にも活用ができそう。【深田】

受賞作品（ＳＦ部門（一般）・奨励賞）

「快適な環境で暮らす」　福島　英樹/（学生以外）

【作品説明】

2024年の夏は猛暑が続き、東京における夏日の日数も153日となった。線状降水帯の発生や台風の勢力が例年より拡大したことなどにより、暑いだけでなく、突然の大量の雨が降る夏だった。そんな環境下で生活することは大変で、個別に暑さ対策をすることはかなり困難となってきている。そこで、すべてを一緒に守る生活方法を考えた。



審査員講評

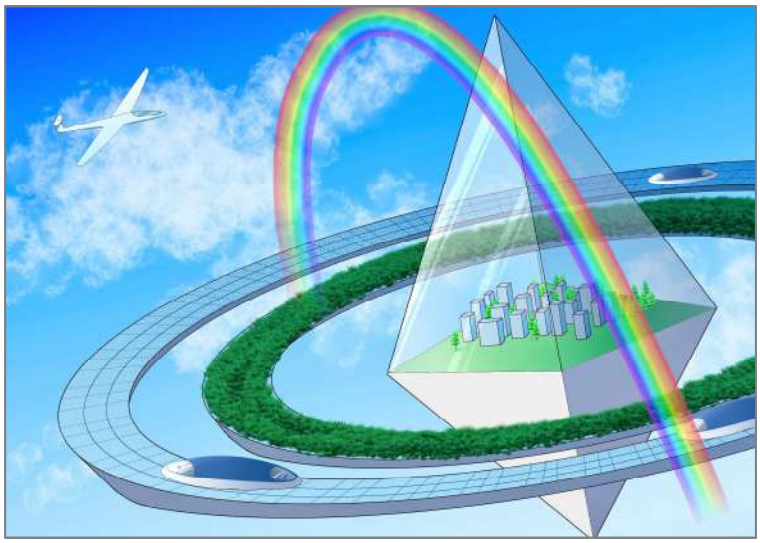
■ 極端な高温が続く、雨が降らない干ばつ、一方で突然の大雨など、自然環境が厳しくなっている中で「すべてを一緒に守る生活方法」としてのドームのアプローチでSF世界が実現できると良いですね。【三宅】

■ ドーム型都市の着想自体は1960年代から広く議論され、極寒地や惑星上に描かれることの多いものです。この作品は、日本における猛暑日の増加や激甚化する風水害に適応していく手段として、これまでSFの世界だったドーム型都市を、私たちが生活をするために改めて考えていただきました。自給可能なエネルギーをもつ究極のコンパクトシティは、都市の機能は活動ドームと住居ドームに集約されるので、モビリティの概念も変わります。100年後には日本の人口が半減する可能性が指摘されていますが、100年後の世代が暮らしていける町の姿を構想して計画し、緩やかに移行していくことは、将来世代に対する私たち世代の責任かもしれません。この絵は、こうした議論を深めていく動機付けになると思います。【芥川】

受賞作品（ＳＦ部門（一般）・奨励賞）

「未来空中都市　熊谷」　大島　朋実/（学生以外）

【作品説明】
　このダイヤ型の空間は、未来の熊谷市です。全方位を特殊なガラスで覆い、デジタル技術を駆使して外気の暑さや寒さから身を守る環境を実現しています。空中に浮いているため地震の影響も受けません。周囲に浮かぶ二つのリングのうち、一つは植物を植える場所として農作物の栽培が可能であり、もう一つは公共交通機関として機能しています。快適なまち熊谷になって欲しいと願い描きました。

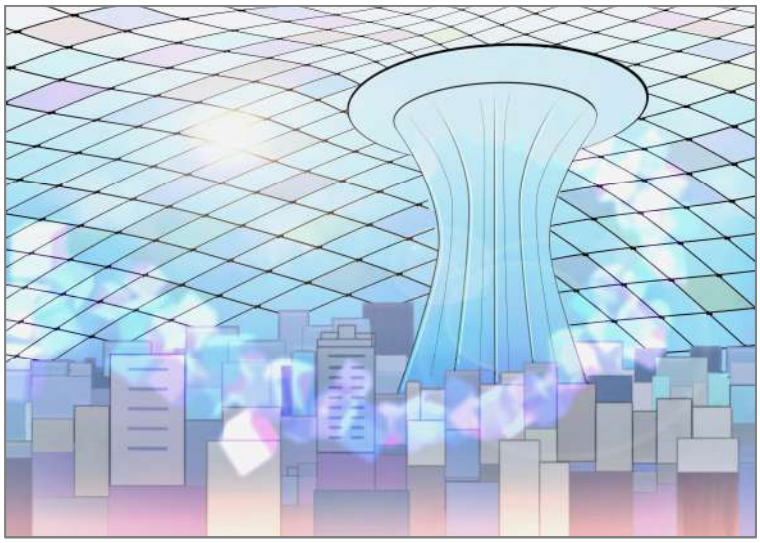


審査員講評

- SF未来の空中都市熊谷市。空中都市での快適な生活が完結するエコシステムが見える。この年のこの時代の行政はAIで行われているのだろうか？移動と物流にドローンを活用しよう。【酒井】
- 自然からの猛威に対して、これぞSFといった解決策なところが良かったです。暑さも寒さもあり、地震災害などの自然の猛威にあう可能性と、農作物豊かな熊谷の両立ができそうです。【竹内】

「Kumagaya, the All-Weather City.」　大島 七海/（学生以外）

【作品説明】
　熊谷市全域をドームで覆い、近年深刻な問題となっている災害級の酷暑や豪雨から街を守る。街の中央にそびえ立つ巨塔がドーム外の天候や気温を分析し、ドーム内を最適な温湿度に保つ仕組み。
誰もが災害に怯えることがなく、安心して暮らせる熊谷市になってほしいという願いを込めて描きました。



審査員講評

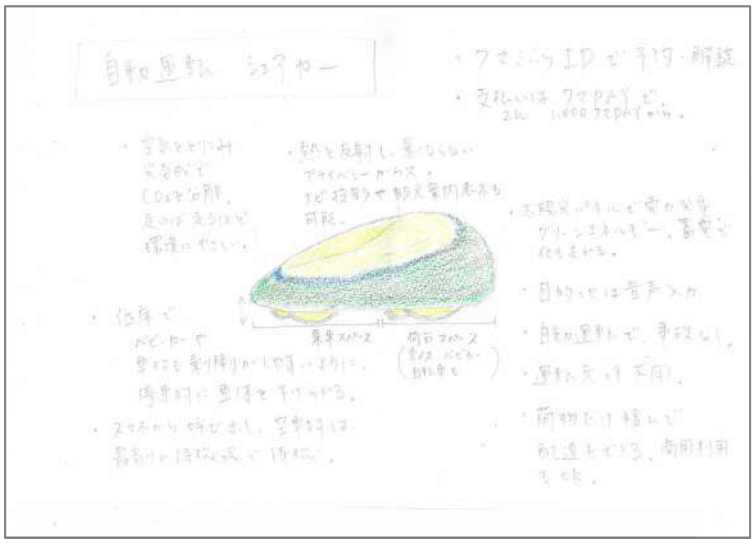
- 熊谷市全体をドームで覆うという壮大なアイデアが独創的です。技術の進歩と人々の安全な暮らしを結びつける素晴らしい提案だと思います。スケッチの表現から技術と環境が調和した、夢のある未来都市像が伝わってきます。【北上】
- 災害への関心がうかがえる作品かと思います。この部門でいくつかございましたが、こちらがイメージがわきやすく、すべてを覆っているところが良かったです。【竹内】

- SFドームシティ熊谷。深刻な環境問題解決、災害対策のヒントを感じられる。地方創生デジタルドーム都市構想、現代にも通用しそうな政策だ。まずは東京と熊谷で実証試験をして、ドローン交通で30分で移動できれば、平時と有事を機能的に使い分ける行政、企業のバックアップシティ構想も膨らむ。【酒井】

受賞作品（ＳＦ部門（一般）・奨励賞）

「自動運転シェアカー」　森　美和/（学生以外）

【作品説明】
　自動運転の自動車をシェアできれば便利だなと思い描きました。自動運転なので運転免許もいらず、子どもから高齢者まで使えます。太陽光発電で動き走ることでCO2を分解するので、走れば走るほど環境にやさしい自動車です。



審査員講評

- 人口減少が予測される熊谷市では、自動運転シェアカーは是非実現して欲しいです。クマぶらIDを使って乗車したり、クマＰＡＹで支払ったりするのもいいですね。【江頭】
- 誰もが安心して利用できる移動手段の提案に加えて、人工光合成とモビリティの組み合わせなどの環境技術のアイディアが魅力的です。低床設計による配慮や、クマPAYとの連携など、実用性も考慮されています。環境と人に優しい未来の交通システムとして、素晴らしい発想だと思います。【北上】

「水の街熊谷」　上原　千歩/（アルスコンピュータ専門学校）



【作品説明】
　応募する作品のアイディアが浮かばずに悩んでいた時にたまたま夢で見た状況をそのままイラストにしました。
　毎日の憂鬱な通勤・通学も、もしも熊谷がこんな街なら楽しくなるだろうなと考えながら制作しました。

審査員講評

- 夢で見たものを描いてみた、ということでびっくりするような斬新なアイディアじゃないでしょうか。お年寄りや泳げない人のことも考えている優しさが作者さんのお人柄を表しているような気がします。【白木】
- 水で熊谷を満たせたら何が起こるのでしょうか？想像するだけでわくわくする作品でした。水が緩衝材となって暑さも寒さも和らげるかもしれませんね。水で満たされるということは泳ぐことで空も飛べるのでしょうか。そういったイメージも与えてくれる作品です。【竹内】

受賞作品（ＳＦ部門（一般）・奨励賞）

「体温腕時計」　藤見　竜聖/（アルスコンピュータ専門学校）

【作品説明】
　このアイデアは熊谷市は日本の中でも夏の暑さが毎年平均以上なのでそんな熊谷市にぴったりの腕時計を思いつきました。
　この時計があれば、夏の熱中症対策のできて、かつ自分自身の体温も確認できます。なのでこの時計があれば一石二鳥だと思いました。

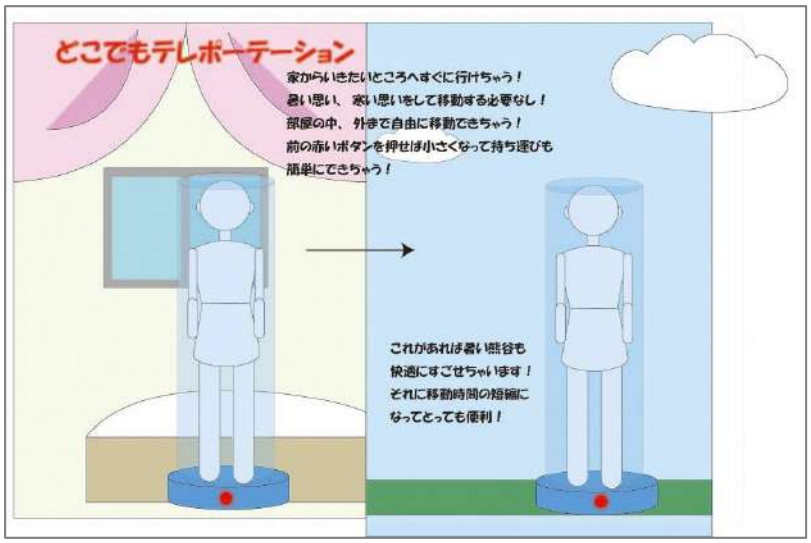


審査員講評

■ スマートウォッチ機能の中で、うまく実現できそうな気がします。多くの人の健康管理に役立ちそうです。【並木】

「どこでもテレポーテーション」　永瀬　純桜/（アルスコンピュータ専門学校）

【作品説明】
　熊谷市は移動の際の気温の影響がすごいと今年、専門学校に通い始めてから思ったのでこれを考えました。



審査員講評

■ 熊谷市の高い気温を快適にするために、周りの空気を換える「どこでもテレポーテーション」という考え方をするのは、素晴らしいです！【三宅】

受賞作品（ＳＦ部門（一般）・奨励賞）

「プール併設型次世代ラグビー場」　小田嶋　瞭/（埼玉県立熊谷高校）

【作品説明】

猛暑の夏場でもプールで涼しく楽しみながらラグビーが楽しめる未来のラグビー場のイメージを描きました。
1.観客席の一部が気候条件次第でプール型にチェンジ！システムで制御される。
2.大屋根は日差しの有無を選択でき、システムが制御する。
3.グラウンドではロボットプレーヤーがグラウンド管理を担当。ハーフタイムショーでは、ダンスを披露し名物の一つにもなる。

使用したＡＩソフト:Myedit



審査員講評

■ 観客がプールに入りながら見ることで、新たなスタイルを熊谷スタイルとして確立できそうです。全世界がよいと感じると思います。【並木】

熊谷市の
未来発見！！



©Kumagaya City

KUMAGAYA SMARTCITY

審査・講評

審査員紹介（第３次審査）



白木 洋平

- チーフアーキテクト（総括、地元大学連携、センシング、ＧＩＳ）
- 熊谷スマートシティ推進協議会委員（データ活用部会　部会長）
- 立正大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科 教授



江頭 靖二

- アーキテクト（システムの連携･運用及び業務改善）
- トムソン･ロイター株式会社 ストラテジックアライアンスマネージャー



三宅 創太

- アーキテクト（新技術･新産業とのネットワーク）
- 合同会社ツクル 代表



鈴木 弘樹

- アーキテクト（建築･都市空間分析、人流分析、都市インフラへの実装）
- 熊谷スマートシティ推進協議会（委員）
- 国立大学法人 千葉大学大学院 工学研究院 准教授



北上 靖大

- アーキテクト（社会モデリング、シミュレーション）
- 株式会社構造計画研究所 社会デザイン･マーケティング部シニアコンサルタント



並木 将央

- アーキテクト（社会の変化（成熟社会等）において必要な仕組みの実現促進に係る全般的な助言）
- 株式会社 ロードフロンティア 代表取締役社長



深田 雅之

- アーキテクト（ドローンの活用、物流のラストワンマイル）
- 一般社団法人　ちちぶ結いまち　代表理事

審査員紹介（第３次審査･特別審査員）



芥川 愛子

株式会社国際社会経済研究所
ソートリーダーシップ推進部･プロフェッショナル

- 大手通信事業者等を経てNECに入社後、IoT、量子コンピュータ等のマーケットインテリジェンスに従事し戦略立案に貢献。
- 内閣府において、第6期科学技術･イノベーション基本計画の取りまとめに参画。
- 現在はNECグループの独立シンクタンクである株式会社国際社会経済研究所でスマートシティと行政デジタル化のThought Leadership活動を牽引。

「こんな未来があったらいいな」を作者ご自身の言葉で表現している作品が数多く寄せられ、デジタルを活用した結果の未来のまち、未来の生活を一緒に考えてくださる仲間が増えたことを嬉しく思います。

今年はAI搭載のドローンやロボットが、生活の困りごとを支援してくれるという着想の作品が多く寄せられました。

SF部門の小学生以下の部では、人とロボットの信頼関係のもとで共に生活していきたいという願いや、ドローンを使って安全･安心に暮らしたいという願い、自動運転の超小型モビリティを通学に使いたいという願いを丁寧に、きわめて高い解像度で描いていただきました。

SF部門の中学生の部では、さまざまな環境技術や移動技術が支える未来社会で、場所の制約から解かれて自由度の高い暮らしをしたいという願いや、いつでも楽しく幸せに暮らしたいという願いが込められていました。

SF部門の一般の部では、SFで描かれたドーム型都市の世界観を現実に実装していこうという提案が複数ありました。100年後には日本の人口が半減する可能性が指摘されている中、100年後の世代が暮らしていける町の姿を構想して計画し、緩やかに移行していくことは、将来世代に対する私たち世代の責任かもしれません。一方、生成AIで描画した作品も多く寄せられましたが、生成AIは学習した一般的な情報をつなぎ合わせた世界観を描画してしまうので、作者の未来への願いや想いも一般化されてしまい、もったいない印象でした。

多くの応募作品がロボットやドローンなどの「技術」が中心に描かれる中、リアル部門では「わかる、えらべる、みつける、つながる」ができる未来があるといいな、と絵の中に書かれた言葉のとおり、人の暮らしを主役に据え、生活の中に溶け込むスマートシティの価値を深く考えてくださった作品がありました。デジタル技術が生活にもたらすささやかな価値が連鎖して、暮らし方の選択肢が大きく広がっていく様子が丁寧に描かれています。別の作品では住宅の外回りの悩み事を解決したいという、生活密着型の提案もいただきました。またWebGISサービスのRe:Earth(リアース)を使って、3Dモデルを作って応募してくださった皆様、次につながる挑戦をありがとうございました。

今年の作品に描かれた世界観を実現するには、技術を導入するという視点だけではなく、住民･行政･地域企業などの立場を超え、これまでの経験と未来への願いを持ち寄って対話をしながら、少しずつ共感と参加の輪を広げていく必要があります。皆様の作品が、未来を拓く対話のきっかけになることを期待します。

審査員紹介（第３次審査･特別審査員）



酒井 学雄

- 一般社団法人日本イノベーション融合学会理事、将来構想委員会/イノベーション人材育成委員会担当
- 株式会社スプレンダーコンサルティング代表

- 「イノベーションが社会を進化させる」が持論。レガシーシステムエンジニアから、IT・ECコンサル会社社長を歴任する。何でもECにしたがる。「IT×新ビジネス創造×みんな幸せ」をコンセプトに、イノベーション＆インキュベーション事業を展開している。
- 一般社団法人　日本ドローンコンソーシアム発起人

ＳＦ部門、リアル部門共に時代背景と熊谷の環境問題等を背景に「暑さ」「ロボット・ドローン」等からの発想が多いようだが、将来のシーンの発想の豊かさを評価するとするとＳＦ部門(小学生以下)が最優秀である。一方でＳＦ部門(中学生)の健闘を期待しなければならない。公教育の何処かで自由でイノベーティブな発想が、しぼんでしまうのではないかとさえ感じる。偉人の言葉を借りれば「必要は発明の母なり」で、日々の生活の中で感じるものを自由な発想で融合させることでしかイノベーションは興きない。近未来のスマートシティを考えるには、自由な発想を持った熊谷市民が必要である。

シーンスケッチをみてみると「熊谷の町をまもる「ニャオザネ」ドローン」「虹が浮かぶスマートシティ」「未来空中都市」「子供が楽しいスマートシティ」「オールウェザードームシティ」「未来のＩＯＴ・ドローンシティ」「外まわりお助けロボ隊」等々どのシーンスケッチも発想が豊かで柔らかい。行政主導でピッチコンテスト等を開催して、社会実装の提案に繋げていってはどうだろうか？そんな夢が一つ一つ実現していけば、子供達も熊谷を愛し、誇りをもって住み続けるに違いない。

この不確実性の時代の将来都市の構想には、デジタル技術の活用は欠かせない。デジタル技術を理解し活用できる、そして行政と市民の垣根を超えて社会課題の解決に貢献できる人財育成が急務である。デジタル庁を超えて、ＡＩ庁が必要な時代がすぐそこまで来ている。そして、そのど真ん中にあるのは「市民の幸福(Well-Being)を高める経済循環」でなければならない。現在と将来の行政課題が透けて見えるシーンスケッチコンテストの継続と優秀なスケッチの社会実装に向けた政策を期待したい。



竹内 公彦

埼玉県立熊谷西高等学校 教諭（理科･生物）

- スーパーサイエンスハイスクール（SSH）第III期（令和６年～10年度）指定校である同校教諭として、「未来を拓く「学ぶ」プロジェクト」や教育実践『課題解決型の未来像提案』に携わる。（第Ⅰ期（H24～H28）、第Ⅱ期（H29～R5）に引き続く指定）
- Ｒ４年度まで埼玉県高校生物研究会北部支部理事
- 日本科学未来館『探究学習プログラム』制作事務局
- 第１回熊谷シーンスケッチコンテストでも第３次審査に携わる

本年度は年代別に様々な未来像を見させていただき、楽しく審査をさせていただきました。猛暑や豪雨などの環境問題が起因する事象に注目する作品が多くある中、わくわくするような作品も多くみられました。今年はそんな『わくわく感』に注目して審査をしています。確かに、世界的な視点からも、地域的な視点からも問題が山積みになっています。そんな中、希望に満ちた作品が多数描かれており、未来の熊谷をそんな希望に満ちたものにしていかなければと感じました。

本年度は「熊谷市全体を考える」「施設などの単一箇所（コンテンツ）のみで考える」「日本各地で実施可能」といった様々な視点がありました。私としては熊谷市の未来なので、熊谷市全体か、もしくは熊谷市ならではのものを重視して審査させていただきました。

印象的だったのは「自然由来のもの」を描いている作品です。大樹を描いている作品や水で満たされた町など、昨年度とはまた違った視点だなと感じました。気温の高さや異常気象が増えてくる未来を、科学技術などで被害予防のするのではなく、地球環境から根本的に解決しようという視点にたっているのではないかと推測されます。このような考えの人々が増えてくるとよりよい未来に近づくのではないでしょうか。また、地図上に施設など示した作品のほとんどが実現できそうなものばかりであり、近い将来に熊谷にぜひ設置してほしいと感じました。

AI技術の革新や、ロボット工学、自然環境の保全など、昨年に比べて世界は数段進んでいると言えます。現状の問題に注視してその解決を探すだけでなく、現在も進みつづけている科学技術をどのように活用するのかみなさんで考えなければなりません。そのきっかけがこのようなスケッチコンテストであれば良いなと考える次第です。

最後に、未来を思い描くとき、２つの考え方があると思います。「課題を解決したいか」「未来にあったらいいなと思うことはなにか」です。科学技術は現状の課題を解決する。よりよくしていく、双方の視点があります。今の子どもたちは双方の視点をもちつつ、課題解決と未来創造の２つが求められています。しかしそれは子どもだけではございません。私を含めた熊谷市民のみんなで、よりよい熊谷市にするために、みんなで未来を思い描き「スケッチ」していきましょう。

審査員紹介（最終審査）



小林 哲也

- 熊谷スマートシティ推進協議会会長
- 熊谷市長



大久保 和政

- 熊谷スマートシティ推進協議会副会長
- 熊谷商工会議所会頭



田所 隆雄

- 熊谷スマートシティ推進協議会データ活用部会会員
- 株式会社まちづくり熊谷参与



野原 晃

- 熊谷市教育委員会教育長



長谷川 泉

- 熊谷市 副市長



大島 英司

- 熊谷市 副市長

審査風景









今後のシーンスケッチコンテストの取組予定

画像生成ＡＩ活用した将来像ビジュアル化の意見交換会（２月中旬）

今回のコンテストでは、画像生成ＡＩで作成した作品が約１割となりました。画像生成A_Iを活用して熊谷市の将来像をビジュアル化し、政策の検討や商品開発を加速する可能性について、実際に様々なプロンプトによる画像生成を行いつつ意見交換を実施します。

広く市民の皆様へ会議の様子を公開する「オープンラウンジ形式」で開催するほか、会議の様子は後日、市のＨＰでも公開します。



ＳＦ部門（一般）・優秀賞
※ChatGPT

小・中学生へのシーンスケッチコンテストの周知・理解の拡大



ＳＦ部門（一般）応募作品
※Copilot(Microsoft)

現在の児童、生徒、学生の皆さんが成長した未来では、生活・仕事の中にさらに進んだデジタル技術が溶け込み、支える未来があると考えています。その未来を幸せでやさしいものにするために、児童、生徒、学生の皆さんが熊谷スマートシティを理解し、参加することが重要と考えています。

シーンスケッチをきっかけに、未来を考え、新たな学びを深めていただくために、「スマートシティ」や「シーンスケッチコンテスト」の説明や関連行事を開催します。

実際のまちづくりや政策検討へと活かす

令和５年度の応募作品をヒントに公民連携で行うスマートクールシティワークショップでは「まちを涼しくする」をテーマに、市民、大学、産業関係者、起業家が集まり、自分たちでまちの温度を測ったり、まちを涼しくするアイディアや装置を考えました。

このように、皆さんからいただいたアイディアを元に、市の実際のまちづくりや政策検討を進めたり、民間との商品開発や新産業の創出につなげたりしていく元となるのが、このシーンスケッチコンテストです。

KUMAGAYA SMARTCITY

全応募作品

応募作品

奨励賞



Ｎｏ.００１（ＳＦ部門（小学生以下））



Ｎｏ.００２（ＳＦ部門（小学生以下））

最優秀賞



Ｎｏ.００３（ＳＦ部門（小学生以下））



Ｎｏ.００４（ＳＦ部門（小学生以下））

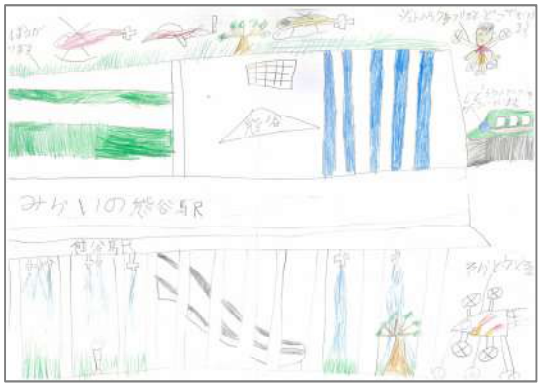


Ｎｏ.００５（ＳＦ部門（小学生以下））

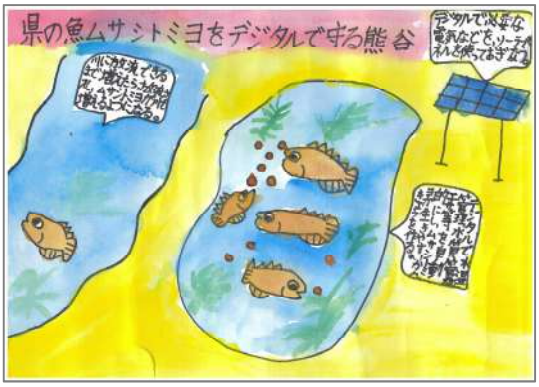
奨励賞



Ｎｏ.００６（ＳＦ部門（小学生以下））



Ｎｏ.００７（ＳＦ部門（小学生以下））



Ｎｏ.００８（ＳＦ部門（小学生以下））

奨励賞



Ｎｏ.００９（ＳＦ部門（小学生以下））

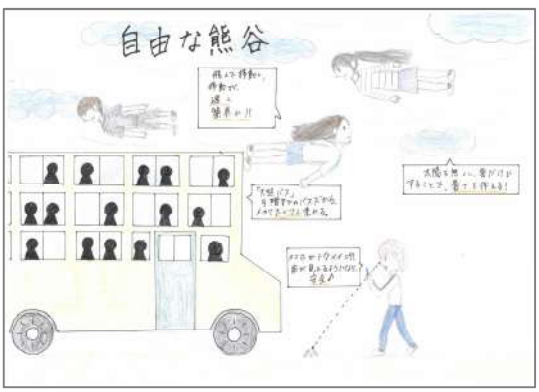


Ｎｏ.０１０（ＳＦ部門（小学生以下））

奨励賞



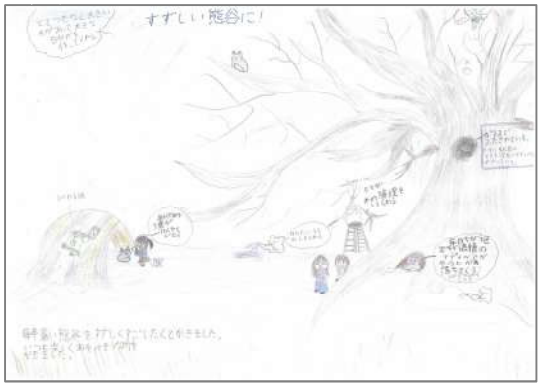
Ｎｏ.０１１（ＳＦ部門（小学生以下））



Ｎｏ.０１２（ＳＦ部門（中学生））

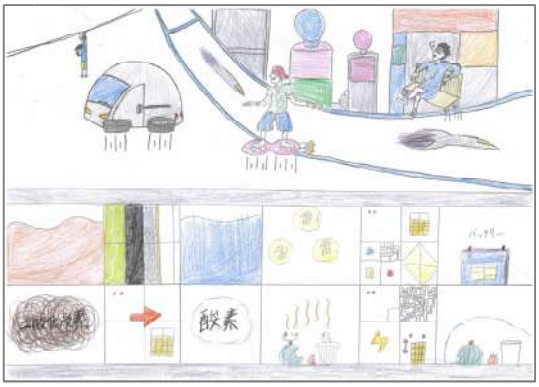
応募作品

優秀賞



Ｎｏ.０１３（ＳＦ部門（中学生））

奨励賞

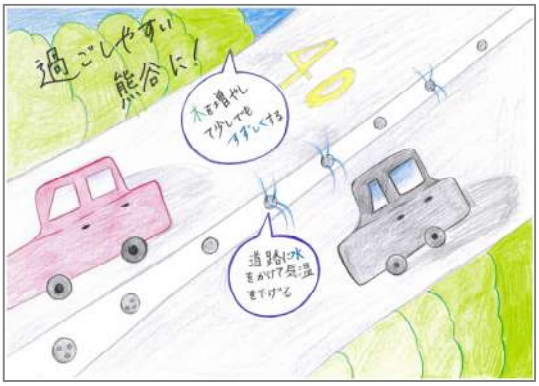


Ｎｏ.０１４（ＳＦ部門（中学生））

優秀賞



Ｎｏ.０１５（ＳＦ部門（中学生））



Ｎｏ.０１６（リアル部門）

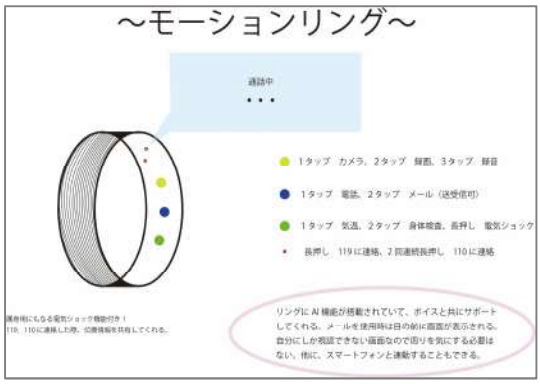


Ｎｏ.０１７（リアル部門）

奨励賞



Ｎｏ.０１８（リアル部門）



No.０１９（リアル部門）

最優秀賞



No.０２０（リアル部門）

優秀賞



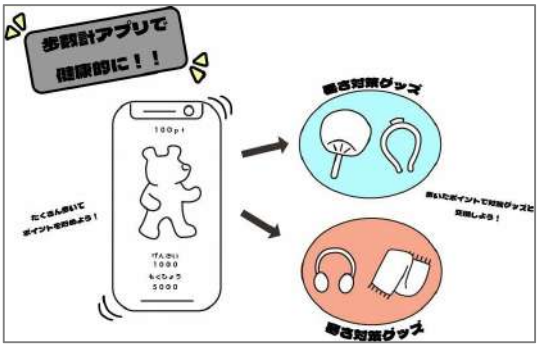
No.０２１（リアル部門）



No.０２２（リアル部門）



No.０２３（リアル部門）



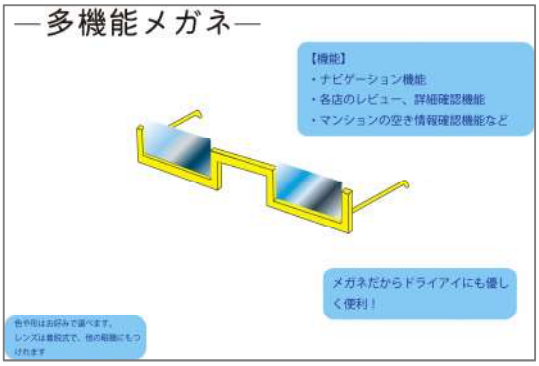
No.０２４（リアル部門）

応募作品

奨励賞

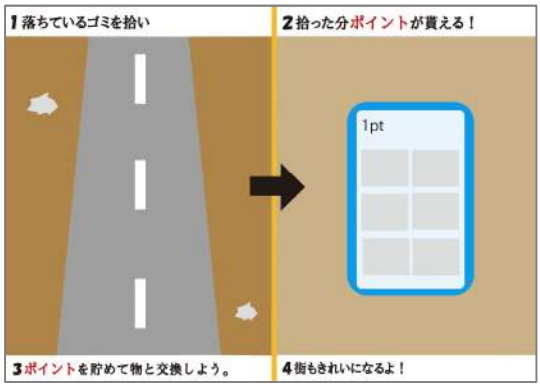


No.025（リアル部門）



No.026（リアル部門）

奨励賞



No.027（リアル部門）

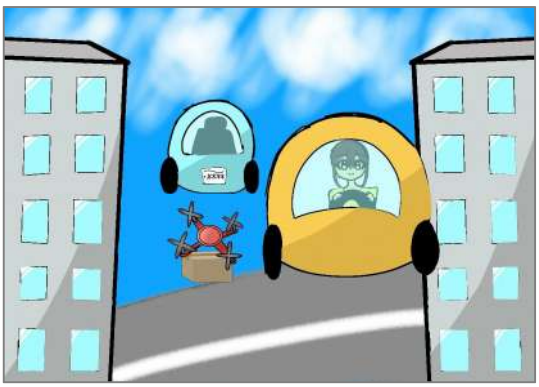
奨励賞



No.028（リアル部門）



No.029（リアル部門）



No.030（リアル部門）

奨励賞



No.０３１（リアル部門）



No.０３２（リアル部門）



No.０３３（リアル部門）

優秀賞



No.０３４（ＳＦ部門（小学生以下））



No.０３５（ＳＦ部門（小学生以下））

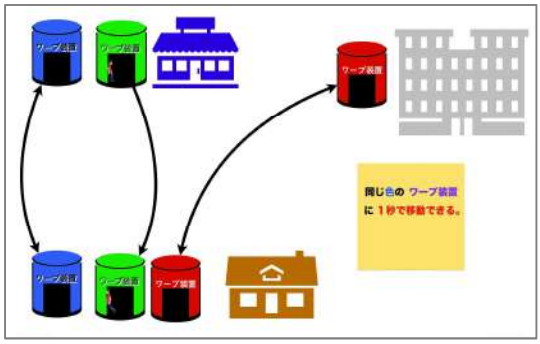
奨励賞



No.０３６（ＳＦ部門（小学生以下））

応募作品

奨励賞



Ｎｏ.０３７（ＳＦ部門（小学生以下））

奨励賞

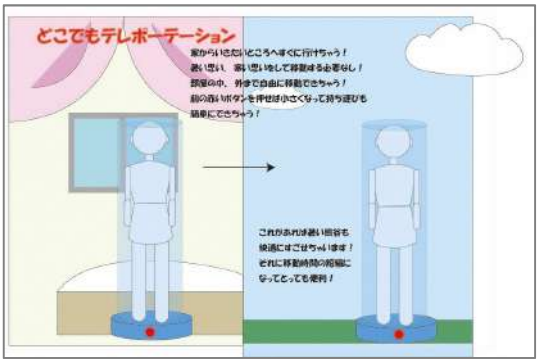


Ｎｏ.０３８（ＳＦ部門（小学生以下））



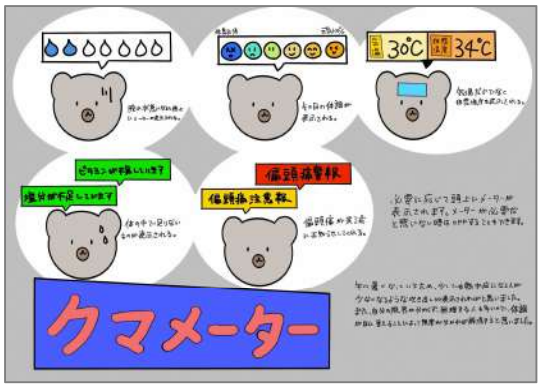
Ｎｏ.０３９（ＳＦ部門（小学生以下））

奨励賞



Ｎｏ.０４０（ＳＦ部門（一般））

優秀賞



Ｎｏ.０４１（ＳＦ部門（一般））



Ｎｏ.０４２（ＳＦ部門（一般））

優秀賞



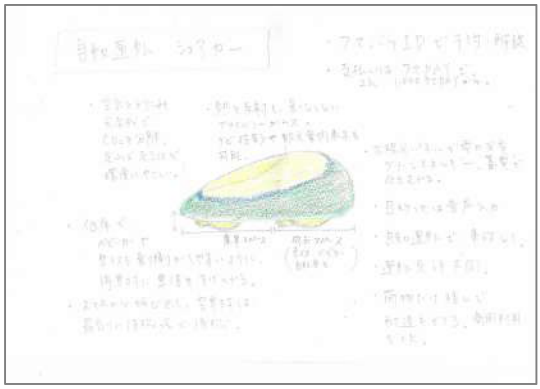
Ｎｏ.０４３（ＳＦ部門（小学生以下））

奨励賞



Ｎｏ.０４４（リアル部門）

奨励賞



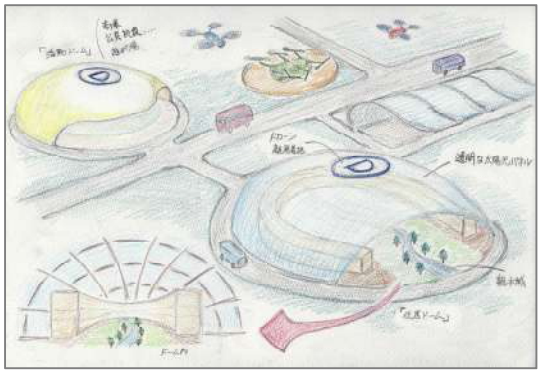
Ｎｏ.０４５（ＳＦ部門（一般））

奨励賞



Ｎｏ.０４６（ＳＦ部門（一般））

奨励賞



Ｎｏ.０４７（ＳＦ部門（一般））

奨励賞



Ｎｏ.０４８（ＳＦ部門（一般））

応募作品

奨励賞



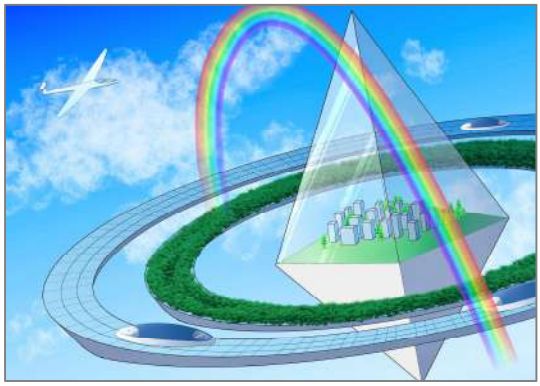
Ｎｏ.０４９（ＳＦ部門（一般））

最優秀賞



Ｎｏ.０５０（ＳＦ部門（一般））

奨励賞

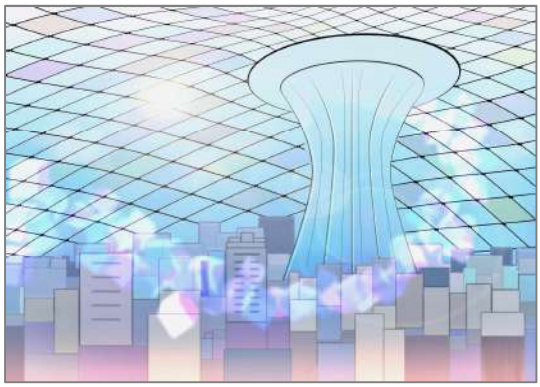


Ｎｏ.０５１（ＳＦ部門（一般））



Ｎｏ.０５２（ＳＦ部門（一般））

奨励賞



Ｎｏ.０５３（ＳＦ部門（一般））

奨励賞



Ｎｏ.０５４（ＳＦ部門（一般））

優秀賞



No.０５５（ＳＦ部門（一般））



No.０５６（ＳＦ部門（小学生以下））

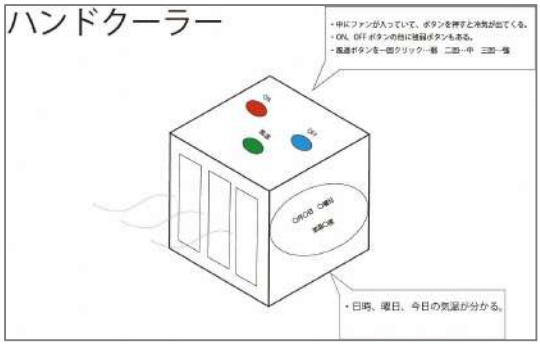
奨励賞



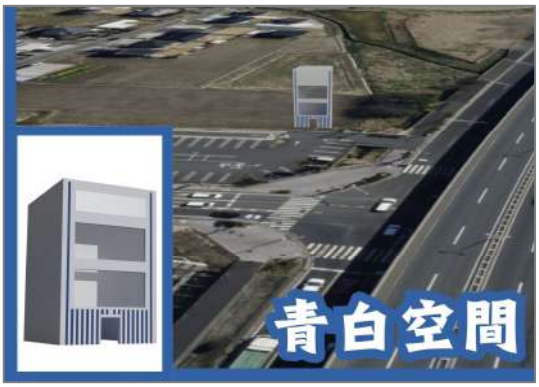
No.０５７（リアル部門）



No.０５８（リアル部門）

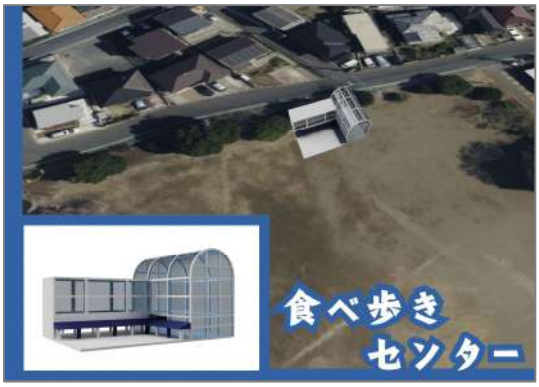


No.０５９（リアル部門）

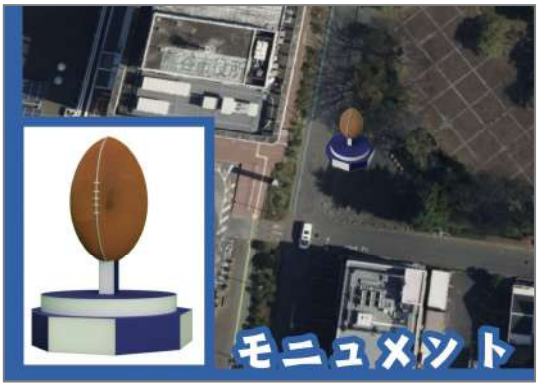


No.０６０（リアル部門）

応募作品

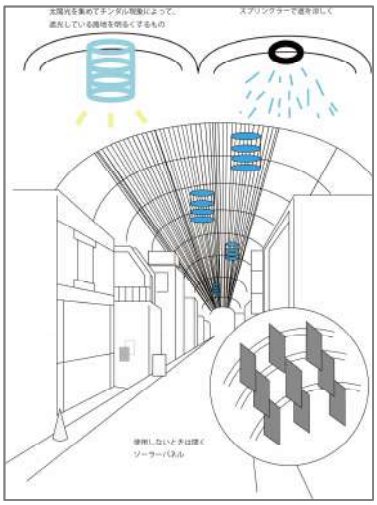


Ｎｏ.０６１（リアル部門）



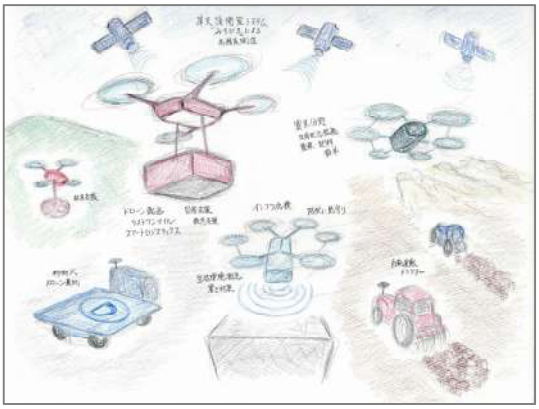
Ｎｏ.０６２（リアル部門）

奨励賞



Ｎｏ.０６３（リアル部門）

優秀賞



Ｎｏ.０６４（リアル部門）



Ｎｏ.０６５（リアル部門）



Ｎｏ.０６６（リアル部門）

奨励賞



Ｎｏ.０６７（リアル部門）



Ｎｏ.０６８（リアル部門）

奨励賞



Ｎｏ.０６９（リアル部門）

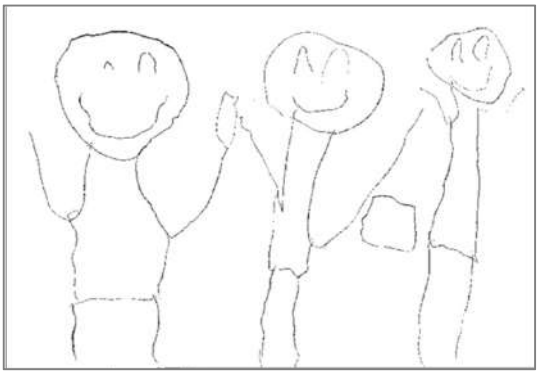


Ｎｏ.０７０（リアル部門）

奨励賞

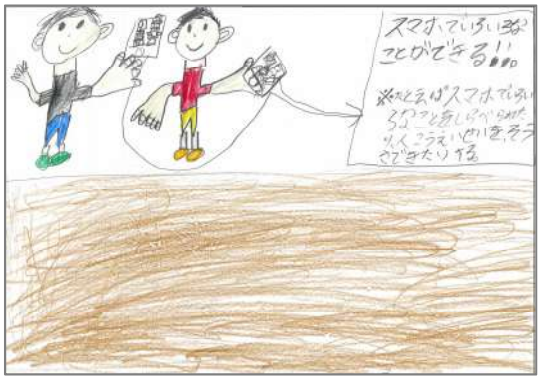


Ｎｏ.０７１（リアル部門）



Ｎｏ.０７２（ＳＦ部門（小学生以下））

応募作品



Ｎｏ.０７３（ＳＦ部門（小学生以下））



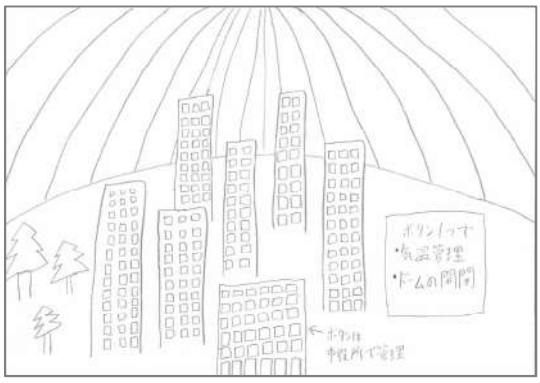
Ｎｏ.０７４（ＳＦ部門（小学生以下））



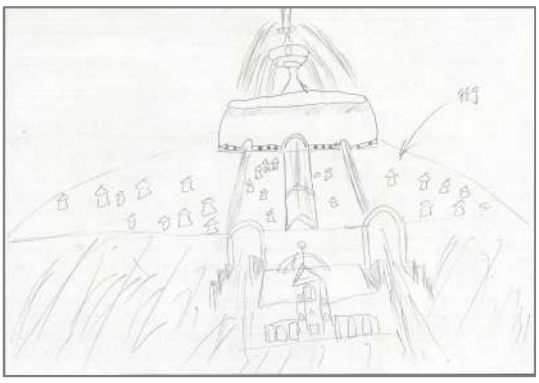
Ｎｏ.０７５（ＳＦ部門（一般））



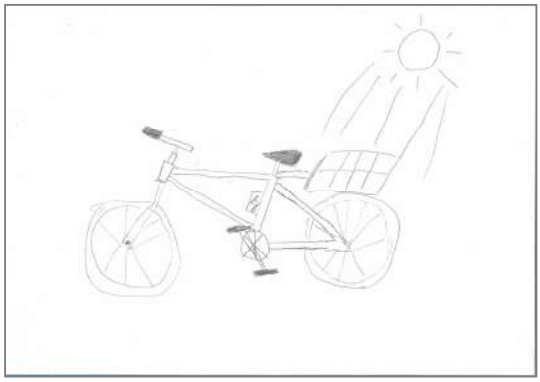
Ｎｏ.０７６（リアル部門）



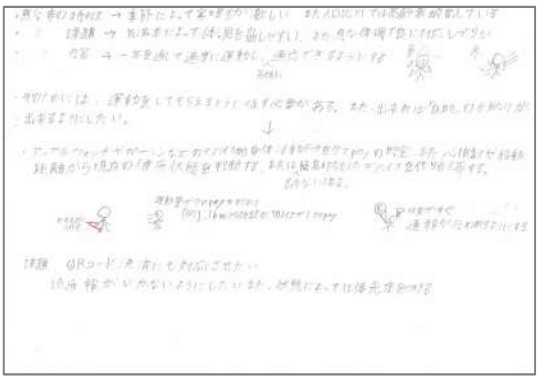
Ｎｏ.０７７（ＳＦ部門（一般））



Ｎｏ.０７８（ＳＦ部門（一般））

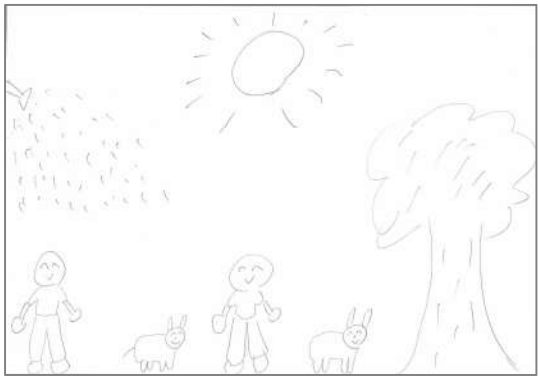


Ｎｏ.０７９（リアル部門）



Ｎｏ.０８０（リアル部門）

奨励賞



Ｎｏ.０８１（ＳＦ部門（一般））



Ｎｏ.０８２（ＳＦ部門（一般））

熊谷スマートシティシーンスケッチコンテスト
https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/sketch/index.htm

作成者：熊谷市市長公室 政策調査課
作成日：令和７年２月



©Kumagaya City